

平成22年度
第32回 秋田県学校体育研究大会
大曲仙北大会

研究のまとめ

研究主題

「わかる・できる・伸びる」楽しさを味わう体育学習



期日 平成22年10月29日(金)

会場 大仙市立大曲小学校
大仙市立大曲中学校
秋田県立大曲農業高等学校
グランドパレス川端

主催 秋田県学校体育研究連合会
秋田県高等学校教育研究会保健体育部会
秋田県教育研究会体育部会





平成22年度
第32回 秋田県学校体育研究大会・大曲仙北大会
〈 研究のまとめ 〉

目 次

発刊に寄せて	大曲仙北大会実行委員会 実行委員長 毛利博信	1
大会要項		2
大会役員		4
全体会		6
閉会行事		13
分科会記録		
◇ 小学校部会		16
◇ 中学校部会		26
◇ 高等学校部会		34
参加者の声		40



発刊によせて 「はやぶさ そして あかつき」

秋田県学校体育研究会
大曲仙北大大会実行委員会 実行委員長
大仙市立平和中学校 校長

毛利 博 信

第32回秋田県学校体育研究大会大曲仙北大大会が、県内外の小・中・高等学校から300名近い皆様のご参会をいただき、盛会裡に開催できましたことに、まずもって感謝申し上げます。また、これまで2年間にわたり幾度も会場校に足を運んでいただき、懇切丁寧なご指導を賜りました、県教育庁保健体育課及び南教育事務所の皆様、さらには細やかに開催地を支援し続けてくださいました、高田会長を始めとする県学校体育研究連合会の皆様方に、心からの御礼を申し上げます。

私の中での2010年の“10大ニュース”第1位は、もちろん県学校体育研究大会の大曲仙北開催です。そして何故か“はやぶさ”が第2位に入ってくるのです。60億kmの刻苦の旅を終え、7年ぶりの帰還と同時に大気圏に突入し燃え尽きた、惑星探査機“はやぶさ”のことが、心に掛かってならないのです。“はやぶさ”プロジェクトについて、私なりにずいぶん調べました。調べれば調べるほど、スタッフの「絶対にあきらめない、すさまじい執念」に驚かされるのでした。広大な宇宙で迷子になった“はやぶさ”を、49日かけ見つけ出した、凄まじいまでの執念。4機のエンジン、かろうじて動いていた最後の1機も止まり、どうしても動かない。それでも決してあきらめようとしないう不屈の魂。今年6月13日“はやぶさ”は、帰還カプセルを切り離れた後、地球の大気圏に突入し流れ星となりました。苦勞に苦勞を重ねたスタッフの目の前で、燃え尽きる“はやぶさ”。それを見届けるスタッフの心境は、察して余り有ります。そして、“はやぶさ”が持ち帰ったカプセル内の微粒子は、全て小惑星「イトカワ」由来のものと判明しました。そして「回収した量は少量であっても、その科学的意義はきわめて大きい」と高い評価を受けています。

本大会実行委員会メンバーを、“はやぶさ”のスタッフに例えるのは、おこがましいことでしょう。身内を褒めるのも見好いものではありません。それでも尚、開催準備を進める中で次々と表出してくる難題に、真っ向から立ち向かう実行委員の姿を思い出すとき、私には“はやぶさ”のスタッフと重なって見えてくるのです。そして、『「わかる・できる・伸びる」楽しさを味わう体育学習』を研究主題に掲げ、学習指導要領改訂の趣旨を確実に理解し実践に繋げること、そのためには小・中・高等学校12年間を見通した、指導の連続性と継続性が不可欠であることを示そうと試みた私たちの取り組みが、今後どう評価されるのか、怖くもあり楽しみでもあります。

先日、金星探査機“あかつき”は、金星周回軌道への突入に失敗しました。それでおしまいかと思っただけですが、なんと6年後に再突入を試みるのだそうです。今度は“あかつき”のファンになりそうです。

終わりになりますが、本大会に多大なご支援とご協力を賜りました、大仙市、仙北市、美郷町教育委員会に深甚なる感謝と御礼を申し上げ、発刊によせる挨拶とします。

第32回 秋田県学校体育研究大会・大曲仙北大会要項

研究主題

「わかる・できる・伸びる」楽しさを味わう体育学習

1 主催 秋田県学校体育研究連合会 秋田県高等学校教育研究会保健体育部会
秋田県教育研究会体育部会

後援 秋田県教育委員会 大仙市教育委員会 仙北市教育委員会 美郷町教育委員会
秋田県小学校長会 秋田県中学校長会 秋田県高等学校長協会
秋田県教育研究会 秋田県高等学校教育研究会

主管 秋田県学校体育研究大会・大曲仙北大会実行委員会

2 期日 平成22年10月29日(金)

3 授業会場及び研究協議会会場

授業会場	○ 小学校部会	大仙市立大曲小学校
	○ 中学校部会	大仙市立大曲中学校
	○ 高等学校部会	秋田県立大曲農業高等学校
全体会・研究協議会会場		グランドパレス川端 (TEL 0187-62-0354)

4 日程

【小学校部会】 授業会場：大仙市立大曲小学校
(〒014-0053 大仙市大曲花園町4番88号 Tel 0187-63-1018 Fax 0187-63-1019)

10:00	10:20	10:30	11:15	12:50	13:30	13:40	15:10	15:40
受付	参観の視点	移動・休憩	大曲小学校	移動・昼食	全体会	移動・休憩	グランドパレス川端	閉会行事
			研究授業Ⅰ(第2体育館)				小学校協議会	
			研究授業Ⅱ(第1体育館)					

【中学校部会】 授業会場：大仙市立大曲中学校
(〒014-0016 大仙市若竹町7番17号 Tel 0187-63-2222 Fax 0187-63-2221)

10:00	10:20	10:30	11:20	12:50	13:30	13:40	15:10	15:40
受付	参観の視点	移動・休憩	大曲中学校	移動・昼食	全体会	移動・休憩	グランドパレス川端	閉会行事
			研究授業				中学校協議会	

【高等学校部会】 授業会場：秋田県立大曲農業高等学校
(〒015-8543 大仙市大曲金谷町26番9号 Tel 0187-63-2257 Fax 0187-62-3434)

10:00	10:20	10:30	11:20	12:50	13:30	13:40	15:10	15:40
受付	参観の視点	移動・休憩	大曲農業高校	移動・昼食	全体会	移動・休憩	グランドパレス川端	閉会行事
			研究授業				高等学校協議会	

5 公開授業

授業会場	場所	単元・内容	授業校・学年	授業者
大仙市立 大曲小学校	第2体育館	ゲーム ゴール型ゲーム 「ハンドボールを基にした易しいゲーム」	大曲小学校 第4学年	高橋 信
	第1体育館	ボール運動 ゴール型 「ハンドボールを基にした簡易化されたゲーム」	大曲小学校 第5学年	佐藤 美保子 加藤 至人
大仙市立 大曲中学校	体育館	球技 ゴール型 「バスケットボール」	大曲中学校 第3学年	藤倉 修
秋田県立 大曲農業 高等学校	体育館	球技 ゴール型 「ハンドボール」	大曲農業 高等学校 第1学年	山本 力

6 分科会指導・助言者等

部会	指導・助言者	司会者	記録者	責任者
小学校部会	秋田県教育庁保健体育課 主任指導主事 越中谷 俊悦	佐藤 厚子 (大仙市立神宮寺小学校) 今野 敏行 (大仙市立中仙小学校)	佐々木 一洋 (大仙市立高梨小学校) 池田 美香子 (仙北市立角館小学校)	大会実行副委員長 佐川 俊也 (大仙市立清水小学校)
中学校部会	秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 大沼 一義	今川 亨 (美郷町立仙南中学校) 柴田 衛 (大仙市立西仙北東中学校)	鈴木 良二 (大仙市立豊成中学校) 鈴木 衛 (美郷町立仙南中学校)	大会実行副委員長 山本 暢三 (大仙市立太田中学校)
高等学校部会	秋田県教育庁保健体育課 指導主事 土井 世紀	藤木 剛 (秋田県立角館高等学校) 高橋 佳照 (秋田県立西仙北高等学校)	田口 忠廣 (秋田県立角館高等学校定時制) 川原 賢一 (秋田県立角館南高等学校)	大会実行副委員長 茂木 優 (秋田県立西仙北高等学校)

7 全体会・助言者等

全体講評	司会者	記録者	責任者
秋田県教育庁保健体育課 副主幹 猿橋 薫	秋田県学校体育研究連合会 理事長 安田 知明 (秋田市立仁井田小学校)	橋本 博幸 (大仙市立太田中学校) 三浦 洋平 (仙北市立角館小学校)	大会実行副委員長 藤原 保子 (大仙市立花館小学校)

8 全体会次第

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 開会の言葉 | |
| (2) あいさつ | 秋田県学校体育研究連合会 |
| (3) 祝辞 | 秋田県教育委員会 |
| (4) 研究概要の説明 | 大曲仙北大会実行委員会・授業研究班 |
| (5) 閉会の言葉 | |

9 閉会行事次第

- | | |
|-----------|-----------------|
| (1) 開会の言葉 | |
| (2) 各部会報告 | |
| (3) 全体講評 | 秋田県教育庁保健体育課 副主幹 |
| (4) 謝辞 | 大曲仙北大会実行委員長 |
| (5) あいさつ | 次期開催地(大館・北秋)代表 |
| (6) 閉会の言葉 | |

平成22年度 第32回 秋田県学校体育研究大会・大曲仙北大大会
大会役員

大会名誉会長	根 岸 均	秋田県教育委員会教育長
顧問	大野米蔵 山友康 笹崎二守 加藤健明 安藤廣志 細谷洋太郎 市田義次 大久保和夫 橋田正樹 工藤裕郎 國井一和 長谷部雄一 櫻安藤秀 大沢山紀 嵯峨峨正 佐々木信 加藤藤邦 小山山享	元秋田県教育庁保健体育課長 " " " " " 元秋田県教育庁参事(兼)保健体育課長 元秋田県教育庁参事(兼)保健体育課長 前秋田県教育庁保健体育課長 元秋田県学校体育研究連合会長・元秋田県教育研究会体育部会長 " " " " " " " " 前秋田県学校体育研究連合会長・前秋田県教育研究会体育部会長
大会会長	高 田 喜 代	秋田県学校体育研究連合会長・秋田県教育研究会体育部会長
大会副会長	佐 藤 英 樹	秋田県学校体育研究連合会副会長・秋田県高等学校教育研究会保健体育部会長
参与	小野巧 大山山裕一郎 石井義広 大久保聰 三浦憲一 熊谷徹 後松順之助 石川孝 斉藤孝一 菊谷英一 石橋浦正孝 三茂達彦 高木正彦 近 孝 夫	秋田県教育庁保健体育課長 秋田県教育庁南教育事務所長 秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所長(兼)南教育事務所副所長 秋田県教育庁南教育事務所雄勝出張所長(兼)南教育事務所副所長 大仙市教育委員会教育長 仙北市教育委員会教育長 美郷町教育委員会教育長 秋田県小学校長会長 秋田県中学校長会長 秋田県高等学校長協会長 秋田県教育研究会長 秋田県高等学校教育研究会長 大仙市立大曲小学校長 大仙市立大曲中学校長 秋田県立大曲農業高等学校長
大会委員長	毛 利 博 信	秋田県教育研究会大曲仙北支部体育部会長
大会副委員長	牧野三千雄 藤原泉茂 和泉真一郎 藤原保子 佐川俊也 山本暢三 宇佐美義和 船木賢咲	秋田県教育研究会体育部会副部会長 " " 秋田県教育研究会大曲仙北支部体育部会副部会長 " " 秋田県高等学校教育研究会保健体育部会副部会長 "

大会委員	猿橋	薰	秋田県教育庁保健体育課副主幹
	越中谷	悦	秋田県教育庁保健体育課主任指導主事
	星野	和貴	" 指導主事
	土井	世紀	" 指導主事
	武田	俊一	北教育事務所指導主事
	檜森	秀樹	北教育事務所山本出張所指導主事
	齋藤	元	中央教育事務所指導主事
	大寺	沼義	南教育事務所指導主事
	寺田	潤	総合教育センター指導主事

秋田県教育研究会体育部会

吉田啓一	村方留里子	明石勝美	貝森登
渡邊一夫	吉田卓弥	佐藤公喜	進藤吉彦
佐藤博英	阿部徹	伊藤英	小後藤幸
青柳正隆	須藤芳樹	小田嶋	後藤美喜子
船山育士			
安田知明	平野真	堀井桂	小野寺純也
鈴木正紀	加賀美俊一	安士知孝	後藤吉英
小濱まゆみ	稲垣寿	佐佐木良博	高橋高守
京極努	櫻田浩	柴田優樹	守屋
佐々木敏昭	小松永稔	星宮伸	

秋田県高等学校教育研究会保健体育部会

佐々木寛	前田真	高橋範夫	大場勝司
加賀谷大輔	飯塚留美子		

第32回 秋田県学校体育研究大会大曲仙北大会実行委員会

実行委員長 毛利博信

実行副委員長 茂木優 藤原保子 佐川俊也 山本暢三
三浦仁 鈴木徹

総務部 ◎小笠原重夫 ○黒田清志 佐々木晴夫 今川亨 佐藤厚子 柴田衛
鈴木和彦 高橋和夫 照井政喜 戸澤博道 藤本圭 松田篤

研究部 ◎戸嶋藤典 ○藤原秀一 安部浩行 池田美香子 石戸将太 石川真一
伊藤敬子 伊藤夕夏 井上利光 大野翔 小原拓磨 小原弘
川尻英二 菊地清志 桐原保 熊木礼子 久米美樹 後藤淳
小林秀子 小西祥子 今野天美 今野和加子 佐々木勝利 佐々木正芳
佐々木泰生 佐藤美保子 柴田由紀子 進藤克尚 杉山良誠 鈴木良二
高橋信 高橋智弘 高久育宏 武部厚 富樫一樹 萩原亨
藤倉修 藤木剛 細井才智 三浦真 武藤清茂 毛利俊介
安田洋介 山本力 湯野澤兄一

研修部 ◎佐藤正 ○橋本博幸 青谷千里 伊藤公之 打川聡 大原耕太郎
大山豊 金森道 川井勇次 草彌盛養 黒澤洋英 小松陽一
佐々木一洋 沢屋恵理子 鈴木知 鈴木衛 須田忠彰 高橋茂樹
高橋範夫 田口桂 田口忠廣 田村道子 堀川英樹 牧野嘉訓
松井智 三浦世揮 三浦洋平 武藤浩紀

広報部 ◎今野敏行 ○小松満 相澤克彦 井合和人 江畑尚 押切環
亀谷一紀 川原賢一 草彌宏之 佐々木健 佐藤洋 佐藤雄悦
菅原和仁 鈴木直人 高橋留美子 高橋佳照 高山泰文 俵谷雅之
三浦健誠 三浦政喜 武藤睦 六郷正博

事務局 ◎加藤至人 ○佐藤秀敏 青木潤 後松静香 萩田圭 今野良育
竹村紀子 野呂田加奈子 吉澤真美子

全 体 会



挨拶

秋田県学校体育研究連合会 会長
秋田市立山王中学校 校長

高田喜代

第32回を迎えます県学校体育研究大会大曲仙北大会が盛大に開催できますことを皆様とともに喜び合いたいと思います。本大会を開催するにあたり県教育委員会様、大仙市教育委員会様、仙北市教育委員会様、美郷町教育委員会様、そして授業会場校様をはじめ、多くの関係各位の皆様のご尽力に対しまして、深く敬意と感謝を申し上げます。また、ご多用中にもかかわらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には心から御礼を申し上げます。

一昨年の本荘由利大会を受けて大曲仙北地区では早々に実行委員会を組織し、本大会を成功させるべく、幾度となく授業実践を積み重ね、準備を進めて来られました。その成果を本大会で授業提案していただくとともに、午後の各分科会でもご紹介いただけるものと喜んでおります。今日の授業提示では、運動の楽しさを満喫している授業が各校種で展開されました。また、運動のすばらしさをどの児童・生徒にも感じ取れるような授業の工夫がなされておりました。有意義な授業提案をしていただき、大変ありがたかったと思っております。

本大会の研究主題は、『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習です。実行委員会では授業を通して、「小学校・中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化」、「明確化された指導内容の確実な定着」、「コミュニケーション能力及び論理的思考力の育成」の3つを実践・検証していきたいと研究を進めてきました。また、授業を通して、わかる、できる、そしてすべての子どもたちに伸びる楽しさを味わわせたいと願い、そのためには、教師は何を支援していくべきかを追及し、教える内容の精選と個に応じた支援の在り方について、研究実践を積み重ねられてきました。

私たち教育現場では、いかにして運動する楽しさをもっと味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ資質を育てるかを考えながら授業に取り組んでおります。この大会で体を動かす楽しさはもちろん、運動の楽しさを満喫できる授業が展開されたことを大変頼もしくかつうれしく思います。運動のすばらしさをどの児童・生徒にも感じ取れるような授業の工夫がなされていたことと思います。そして、その実践の積み重ねが、確かな学力を児童・生徒に保障し、更に「より楽しい体育授業」をつくり上げるものと期待しています。これまでの研究の積み重ねに対しまして、大曲仙北大会実行委員会の皆様には心より御礼申し上げます。

次期大会開催は大館北秋地区となります。本大会の研究実践や新しい体育の流れを視野に入れ、研究を進めていただければ幸いです。今後、大館北秋地区の皆様には大変ご難儀をおかけすることになりますが、よろしくお願いたします。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、ご支援・ご協力くださいました関係各位並びにご参会の皆様には厚く御礼を申し上げ、挨拶といたします。

挨拶

秋田県教育庁保健体育課 課長 小野 巧

『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習」を研究主題に、第32回秋田県学校体育研究大会大曲仙北大会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げますとともに、関係の皆様のご真摯で熱意ある取組に敬意を表する次第であります。

さて、平成20～21年度には小・中・高等学校の新学習指導要領が告示となりました。現在各学校では、「生きる力を育む」という理念のもと、各教科で計画的に授業づくり、及び授業実践が進められていると伺っております。新学習指導要領においては、小学校、中学校及び高等学校を通じて、「体育科、保健体育科でその課題を踏まえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し改善を図ることや学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視し、学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化を図ることなど、さらには体育に関して、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る」ことなどの新たな体育科、保健体育科における基本方針が示されております。

これらの基本方針を踏まえながら今後、小学校では基礎的な身体能力を身に付け、実生活において運動を豊かに実践していくための資質や能力の基礎を培うこと、また、中学校では健やかな体の基礎となる身体能力と知識を定着させ、身に付けた段階に応じ、運動を豊かに実践していくための資質や能力を育てること、さらに、高等学校では、生涯にわたって健やかな体を培うための身体能力と知識を定着させ、個人に応じた豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育成することを目指した体育学習の充実が求められております。

このような状況のもと、本大会において「『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習」を研究主題に掲げ、新学習指導要領の趣旨等に基づく新たな実践研究を推進してこられたことは大変意義のあることと考えます。大曲仙北地区の研究会員の皆様におかれましては、会員相互が連携して新学習指導要領の目標及び内容等の具現化を目指し、本日の授業提示をされたことと思います。本日、この後の研究協議会における熱心な協議が、今後の秋田県における体育学習の新たな方向を示すとともに、大きな示唆を与えてくれるものと確信しております。

秋田県教育委員会としましては、新学習指導要領の周知を図るための教育課程説明会の実施や児童生徒の運動及び健康課題の解決につながる各種事業などの取組を今後も進めて参りますので、ご参会の皆様にはより一層のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたり、ご尽力いただきました関係各位に対し深く感謝を申し上げますとともに、大曲仙北学校体育研究会のますますのご発展を祈念いたしまして挨拶いたします。本日はよろしくお願いいたします。

研究概要の説明

大仙市立大曲中学校 教諭 佐藤 秀敏

1 研究主題

「わかる・できる・伸びる」楽しさを味わう体育学習

2 研究主題設定の理由

今回の学習指導要領改訂では、確かな学力を育成するためには基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用した思考力・判断力・表現力・その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要があるとうたっています。これからの体育では、基本的・基礎的な知識や技能、態度、思考・判断力を身につけ、実生活で運動を豊かに実践していくための資質・能力を培うための学習指導の在り方を工夫していくことが求められています。また同時にコミュニケーション能力を育成することや筋道を立て練習や作戦を考え、改善する方法などを互いに話し合う活動を通じて、論理的思考力をはぐくむことにも資するということを踏まえ、生涯にわたって運動に親しむことができるよう、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し、体系化を図ることが求められています。これまで、当地区では、「運動の持っている楽しさを味わわせること」「適切な経験を通して子どもたちが自ら学び変容していくこと」の二点が重要と考え、「めあて学習（中学校では課題解決学習）」にポイントをおいて研究を進めてきました。しかし、一定の成果を上げることができたものの、反面、指導内容が不明確になったり、「自発的な学習が大切」とか「楽しさ」を優先させるあまり、授業での指導が消極的になったりして、基礎的な技能を子どもたちが習得できないでしまったという状況もありました。中教審答申においても、「教えて考えさせる」指導を実現すること、そして教える内容（学習内容）を明確にすることが不可欠であると述べています。

今回の改訂により、生涯スポーツにつなげるための系統的な学習と、指導内容を明確にし、確実に定着させることが求められています。児童・生徒が「どうすればできるようになるかがわかる」と「実際に、できるようになる」、すなわち「わかる」と「できる」を授業の中で実現させていくことがポイントとなります。さらに、「いつもできる」「もっとできる」のように「できる」の質を高めることを目指して実践し、より合理的な実践を求めていくことで「伸びる」ということにつながるのではないかと考えています。

そのためには、「どの時期に何をどう学ばせれば、できるようになるのか」ということを教師側が明確にもち、今回のような研究を通して、実践を積み上げることで「より楽しい体育授業」を創

り上げ、児童・生徒の体力の向上や生涯にわたって運動に親しむ資質と能力の向上にもつながると考えています。

3 研究仮説

「どうすればできるようになるかがわかる」「実際にできるようになる」学習を保障することにより、多くの成功体験をさせ、「伸びる」ということを実感させることができれば、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことができるであろうと設定いたしました。そこで、大仙市立大曲小学校では、平成21・22年度秋田県教育委員会主催の体育学習テクニカルサポート事業における授業作りの取組を活用させていただきました。また、大仙市立大曲中学校では、平成21・22年度国立教育政策研究所教育課程指定校事業において、公立の中学校では、全国唯一の指定校となり、「体づくり運動」「保健健康な生活と疾病の予防」「球技ゴール型」という分野において「新学習指導要領の具現化に関する研究」というテーマのもと研究を進めてきました。

その研究の成果を中心とした、歩みについてご説明いたします。

4 研究の重点

(1) 小学校、中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化を図る

① 12年間を見通した年間指導計画の作成

球技の特性を考え12年間の指導の体系化を図ることとしました。平成23年度の学習指導要領及び解説の改訂に向けて2年間の指導内容のまとまりに留意して作成しました。1・2年、3・4年、5・6年と2年間のまとまりを意識した指導内容が示されています。

大曲中学校で作成した年間指導計画では平成24年度の学習指導要領及び解説の改訂に向けて、1・2年において、各領域の運動に触れさせることができるようにし、3年には、武道と球技の選択を取り入れるなど、1領域以上の選択を取り入れることという考え方で作成しました。県立大曲農業高等学校で作成した年間指導計画では12年間の学校体育の集大成としての姿を意識することと、新学習指導要領の内容に対応させることができるよう配慮しております。

② ゴール型の観点別系統表の作成

新学習指導要領及び解説の内容を考慮し、「技能、態度、知識・思考判断」のつながりやバランスに配慮して、作成しました。

(2) 明確化された指導内容を確実に定着させる

① ねらいを達成するための単元計画及び学習内容の検討

「新学習指導要領に対応した簡単な単元計画の構造図」の作成とゲームの局面に着目した学習指導の工夫を行いました。単元構造図作成の考え方は「学習指導要領解説の記載内容」をもとに、授業のポイント（生徒への発問の仕方や声かけの仕方など）を検討し、内容を確実に反映

させることができるようにしました。

評価規準は、新学習指導要領解説の例示に示されている内容との関連が深いために、関係を明確にし、その整合性が図られるようにしました。単元計画の作成では、授業のポイントや評価規準をもとに、生徒の実態に合わせた指導内容を検討し、それらを効果的に配分することで、単元の計画を作成しました。さらに各時間の具体的な指導の手だてを検討して、指導を行っていくことで、目標、内容、授業、評価の一体化が図られるようにしております。

② ゲームの局面に着目した学習指導の工夫

実際の指導では、解説に示されている中学校第1・2学年の球技ゴール型の内容の「ボール操作」に関する技能において、「・マークされていない味方にパスを出すこと」及び「・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと」という内容の習得のため「ノーマークシュートドリル」「3：2パスドリル」「パスキャッチ&シュートドリル」「ランニングパスドリル」という内容に沿ったスキルアップドリルを開発し、体育館を4分割にしてサーキット方式で取り組ませました。このようにそれぞれの動き方をわかりやすく指導するための資料も作成しました。知識の習得にも役立てることができるように、要点を示した資料を活用しました。

また、同じく内容に示されている「空間に走り込むなどの動き」という内容では、例示に示されている「・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くこと」という技能の習得のため、アウトナンバーゲームを取り入れ、指導の手だてとしました。知識の指導では、動きのこつを指導することで、技能の指導と関連させながら指導してきました。さらに、ねらいに沿ってグループで作戦を立てる場を設定するなどし、思考力・判断力を高める指導に取り入れられてきました。

目標、内容、授業、評価の一体化を目指した単元計画の作成についての成果として

構造図を作成し、指導に生かすことで、新学習指導要領及び解説に示されている内容における具体的な指導を行い、より確かな評価を行うことができました。こうした取組から、生徒にとっては段階的で系統的な学習となることが分かりました。また、知識、思考・判断の指導も、技能の指導との関連を考え、計画的に指導することができたと感じています。その結果、よりわかる・できる学習ができたと感じています。

(3) コミュニケーション能力を高め、論理的思考力をはぐくむ

① 練習方法や作戦について話し合いの活動の充実

子どもたちがねらいやめあてを達成するためにどうすればよいかということ話し合う場面を設定するようにし、話し合いで得られたチームの考えや意見を実際のプレーで生かすことができるような場の工夫を行い、話し合い活動が充実するような取組を行いました。

② 兄弟チーム等による応援や客観的な評価（アドバイス）の実施

主にゲームの場において、他者評価を取り入れることで、自分たちの取組を客観的にとらえることができるようにしました。また、実際のゲームにおいて、活動で得た技能を生かすことができるように、「声かけ」による即時の「アドバイス」に関する指導も取り入れ、アドバイスシートを使いながら本時のねらいの達成状況を記入することができるようにし、各チームが

どれだけねらいに迫ることができたかを客観的に見取ることができるようになっていきます。高等学校では身につけた技能を学習に生かし、自分たちで球技大会を企画・運営し、球技ゴール型の運動に取り組みました。

③ 試合運営などを通した望ましい態度の育成

新学習指導要領解説には、中学校3年「球技」の態度において、参画、公正、責任、協力、健康・安全の内容が示されました。望ましい態度を育成するということは、示された態度の内容を単元の構造図や指導計画にしっかりと盛り込み、確実に指導に生かしてことで育成されるものと考えています。公正の内容では、決められたルールを守るだけでなく練習やゲームで求められるフェアな行動をする相手を尊重するなどのフェアなプレーを大切にするそうすることで、友情を深めたり、連帯感を高めたり生涯にわたって運動を継続するための重要な要素となると考えます。それらを、計画的に指導に取り入れていくことで、示された内容を確実に指導し評価につなげるようにしました。

閉 会 行 事



全体講評

秋田県教育庁保健体育課 副主幹 猿橋 薫

本日は第32回秋田県学校体育研究大会大曲仙北大会が盛大に、かつ有意義な内容で開催されましたことに対しまして、関係者の皆様に感謝の意を表します。2年に一度、小学校と中学校、高等学校の各校種が一堂に会して開催される貴重な本大会は、ただいまの各部会の報告にもありましたとおり、体育科・保健体育科の研究をより一層深まりのあるものとし、また、大きな成果を生み出している重要な機会だと思います。

特に今年度は、三校種の全てが新学習指導要領の一部先行実施の期間と重なりまして、体育科・保健体育科の新たな目標や内容等の具現化を図る授業実践に期待が寄せられた大会でもありました。短い時間ではありましたが、小学校・中学校・高等学校の授業風景を拝見させていただきました。特に小学校では笑顔あふれる子どもたちの表情が非常に印象に残っております。また、小・中・高等学校の各校種とも、一昨年開催されました本荘由利大会と同じように、教師の説明や子ども同士の発言を真剣に聞く態度・姿勢に非常に大きな感動を覚えました。いずれの授業においても、児童生徒の表情や動作からは運動の楽しさや喜びを味わっていることを見取ることができました。

小・中・高等学校の新学習指導要領体育科・保健体育科ではご存じのように、引き続き保健と体育を関連させて指導すること、また、学習したことを実生活、実社会に生かすことを重視すること、さらには、学校段階の接続や発達段階に応じて指導内容を整理し明確に示すことで体系化を図ること。このようなことが改善の基本方針として述べられております。各学校種において新学習指導要領の全面实施や学年進行での実施に向けまして担当校種の指導内容の理解にとどまらず、他の校種の指導内容についても理解を深める必要があると思います。また指導にあたりましては、明確化された技能、態度、知識、思考・判断の内容について理解を深めるとともに、バランスよく指導することも必要であります。どうか、各地域の研究会におかれましては、今後も計画的・継続的に新学習指導要領の理解促進を図るなどして、研究会員相互の資質能力の向上を図り組織の活性化に結び付けてくださることをお願いしたいと思います。

なお、県教育庁保健体育課では、各学校や団体などの授業づくりなどを支援する「体育学習テクニカルサポート事業」と題した取組を行っております。ぜひ各学校や研究団体等で活用していただければ幸いです。

終わりになりますが、本大会の研究主題であります『『わかる・できる・のびる』楽しさを味わう体育学習』につきましては、全県の研究会員がゲーム・ボール運動・球技領域におきまして体育学習の知識、技能等の大切さを考えることのできた、さらには、どの時期に何をどう学ばせればできるようになるのか、これを明確にもつことの大切さ、いわゆる今回の改訂の基本方針をおさえた大変素晴らしい内容であったと思います。ぜひ大曲仙北地区では、この主題をこれからも大切にされまして、そして研究成果をより多くの学校に広めてくださることを期待しております。

また、県内の全研究会員が課題意識や危機意識をもち、学校体育のさらなる充実に取り組んでいただくことをご期待申し上げまして全体講評といたします。

謝 辞

秋田県学校体育研究会
大曲仙北大大会実行委員会 実行委員長
大仙市立平和中学校 校長

毛利 博 信

地元大曲仙北体育研究会員を代表いたしまして御礼を申し述べさせていただきます。
まずもって、県教育庁保健体育課課長小野巧様、同じく南教育事務所仙北出張所所長石井義広様はじめたくさんのご来賓の方々がおいでくださり、また、こんなにたくさんのご参会をいただきました。県内各地から、さらには山形、宮城、愛知からもご参会いただいております。たくさんの皆様は私どもの拙い研究成果をみていただき、ご支援と激励をいただきましたことに心から感謝を申し上げたいと思います。

この県学校体育研究大会が大曲仙北で開催されますのは実に二十年ぶりのことであります。二十年前、私が中学校の授業者でありました。そして、その時の授業を行った生徒の一人が先ほど高等学校の発表をしてくれた高橋先生であります。今回、大会の開催準備を進めていく中で二十年間の間で自分はどれだけ成長できたかなということを考えたりもしました。それから、私たち大曲仙北の研究会はこの二十年間でどれだけ成長してきたのかなということにも思いをいたしたりもしました。いずれにしても、小・中・高等学校が個々バラバラに研究をしても、研究は少しも前に進まないと思います。小・中・高等学校の垣根を越えて、心をついにしなければ研究は進んでいけないということを強くあらためて教えてもらう機会をいただきました。小・中・高等学校の連携と口では簡単に言いますが、実際に進めていく上では、今回のような機会を私たちがいただいたこと、それに、まず感謝を申し上げたいと思います。私たちの大きな宝になりました。

生きることがとても難しい時代を迎えております。ともすると、つぶされそうになる若者の夢を支えていくものは健康と体力と気力であろうかと思えます。それを培うものは学校体育であろうと私は信じております。今回ご指導いただきましたことを基に、今一度整理し直して私たちはよりたくましい子どもたちを育てるために一層研究を進めさせていきたいと思っています。

最後になりますが、今回の大会を開催するにあたりまして強く支えていただきました全ての皆様への感謝を申し上げます。また、今回至らない点など多々あったと思いますが、その点のご容赦をお願いして地元大曲仙北の体育研究会を代表して御礼の言葉といたします。本当にありがとうございました。

挨拶

次期開催地(大館北秋地区) 代表
北秋田市立森吉中学校 校長

明 石 勝 美

今日は示唆に富んだ研究の成果を公開していただき、学ぶべき点が多々ありました。この成果を持ち帰りながら、各校であるいは地域で実践に生かしていきたいと思っています。これまでの取り組みに心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

先回、平成四年になりますけれども、大館・北秋田地区大会は鷹巣を会場に幼稚園・小学校・中学校と私は記憶していたのですが、先程一時間ほど前に元会長の佐々木先生が、「いやいや、鷹巣は高等学校二校も公開したよ」と言っておられました。そうすると、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の四校種で授業提供したのだなとあらためて感じておったところでもあります。つながりといいますが、いずれ四校種の学びの姿を提供した大会になります。当時のこの研究が新学習指導要領の改訂の趣旨に添った授業提供でございました。

次期開催地としましてもこの線に沿って小学校・中学校・高等学校の連続を追究しながら、授業提供できればと考えているところでもあります。今回の大会に劣らぬ成果を基に大館市で皆様をお待ちしたいと考えております。多数の方においでいただきますことを念願しながら次期開催地の挨拶にかえさせていただきます。

小学校部会



小学校部会記録

1 指導者・授業者等紹介

指導者	秋田県教育庁保健体育課	主任指導主事	越中谷 俊 悦
授業者	大仙市立大曲小学校	教 諭	高 橋 信
授業者	大仙市立大曲小学校	教 諭	佐 藤 美保子
授業者	大仙市立大曲小学校	教 諭	加 藤 至 人
責任者	大仙市立清水小学校	校 長	佐 川 俊 也 (大会実行副委員長)
司会者	大仙市立神宮寺小学校	教 頭	佐 藤 厚 子
司会者	大仙市立中仙小学校	教 頭	今 野 敏 行
経過説明	大仙市立四ツ屋小学校	教 頭	戸 嶋 藤 典
記録者	大仙市立高梨小学校	教 諭	佐々木 一 洋
記録者	大仙市立角館小学校	講 師	池 田 美香子

2 経過説明

全体会の研究概要の説明で、大曲中学校の佐藤秀敏教諭が話されたように、新学習指導要領に示されている内容をいかに具現化するかという観点で、実践を積み重ねてきました。その実践の一部が、授業をつくり上げるためのアイテムである「年間指導計画」であり、「観点別系統表」や「単元の構造図」などです。資料集の1～11ページに綴じ込んでいますので、後ほどご覧ください。

さて、今回、小学校部会としては、大曲小学校を中心に実践を積み重ねてきましたが、まず新学習指導要領に示された内容をどう読み取るかということに力を入れてきました。大曲小学校で活用した県のテクニカルサポート事業に会員もできる限り参加し、授業参観、協議会での議論を通して、新学習指導要領の理解に努めました。しかし、この点に関しては、まだまだ勉強不足ですので、今日ご参会の皆様からご意見をいただき、さらに深めて参りたいと思っています。

もう一つ力を入れてきたことは、先ほど申し上げましたアイテムを生かしながら、いかにして明確化された指導内容を児童に確実に定着させるかということです。そこで我々は、プロジェクトチームを立ち上げて、「シュートを決める」「シュートチャンスを作る」「ボールを運ぶ」というゴール型特有の3つの局面に着目し、明確化された指導内容がゲームにおける生きた技能となるように、本ゲームの前に行うドリルゲームやタスクゲームの開発を試みました。資料集の12ページからその資料を載せてありますので、後ほどご覧ください。この資料作成の際には、東京学芸大学の松田准教授の「局面学習」という考え方を参考にさせていただきました。また、湯沢雄勝体育研究会で作成された技能系統表も参考にさせていただきました。(ありがとうございます。)

今後、このプロジェクトチームの実践を他の運動領域にも広げていき、小学校の専門外の先生方でも、わかりやすく簡単に実践できる資料として提供できないものかと考えているところです。

3 授業説明

○4年 高橋

今回の単元では新学習指導要領で示されている「やさしいゲーム」を楽しく行うことを通して、基本的なボール操作やボールを持たない時の動きを身につけさせることをねらいとした。

担任している4年生のクラスでは、今年6月にゴール型運動（ア）をねらい、コート内で攻守入り混じって、ボールを手や足を使って操作したり、空いている場所に素早く動いたりしてゲームすることをねらった授業を行った。その時は今回、タスクゲームとして行った「スリーズゲーム」がメインゲームとして行われる構成となっていた。そのスリーズゲームにはゴールにシュートをするという動きがなかったので、今回はボトルノックアウトゲームという易しいゲームを考え、そのゲームを柱とし学習を進めて、新学習指導要領で求めている力をつけさせようと授業を組み立てた。

新学習指導要領では、シュートのねらいとしては、「ボールを持ったとき、ゴールに体を向けること」ということが示されている。そこで単元の前半部分では、その動きをねらったドリルゲームをメインとした授業を行っている。そして次のパスすることをねらう段階では、そのシュートのドリルゲームを準備運動の段階で行い、技能のさらなる定着をねらった。そして本日の授業ではボールを持っている人と自分との間に守備者がいないように動くことをねらいとした。パスを通すことで得点が入るスリーズゲームでは、守りの人数を前の時間よりも1名増やした。1名増えることによって、非常に攻撃の方がしにくくなるという状況を考え、本日は増えた1名の分、その子だけは動きを制限することにした。制限したことで攻めるための技能の定着を図ることをねらった。今日行った感じでは、子どものふりかえりのカードにも書いてあったが、大体の児童が、どこへ動けばよいか考えながら動いていることができている状態だった。やはりなかなかそこまでできていないという児童もいた。スペースゾーンという円形のステップボードを置いて目安の場所を示すことで、動きをとらえやすくしようとしたが、他に有効な手段があれば教えてほしい。

それからメインゲームのボトルノックアウトゲームに入る時も、タスクゲームで行った動き、移動するために必要な動き、これを意識して臨むように声をかけて行ったが、どうだったか。新学習指導要領にそったねらいを確実に定着させるために、いろいろ方法があると思うので、他にもあったら教えてほしい。

○5年 佐藤・加藤

本実践では、新学習指導要領に示された目標及び内容を「授業レベルでいかに具現化するか」「どのようにして指導内容の確実な定着を図るか」ということをポイントにして授業づくりに取り組んできた。具体的な指導と評価に関しては解説の73ページの下から5行目に

- ・近くにいるフリーの見方にパスを出すこと
- ・ボールを保持する人と自分の間に守備者を入れないように立つこと
- ・得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすることが示されている。

本単元では、まず、「シュートを打つ」楽しさを味わうことから授業をスタートさせた。シュートを決めることで達成感や満足感を味わうことができ、それが学習への意欲につながると考えたからである。パスをキャッチしてシュートをするドリルゲームを行い、攻撃しやすく、また得点が入りやすくなるような簡易化されたゲーム（銀河ゲーム）を行った。しかし、簡易化された

ゲームでは、守備者の防御に合い、パスがうまくつながらず、ドリルゲームで練習した技能を発揮することはできなかった。振り返りでは、「得点しやすい場所に移動することはできたけど、パスがこなかった」「守っている人にパスをカットされてしまい、シュートを打つことができなかった」という声が聞かれ、子どもたちは、「シュートを打つことができる場所まで『ボールを運ぶこと』の大切さ」に気づくことができた。

次に、「フリーの味方にパスを出す」ことを目指して、ノーマークパス練習（パスを出す側の動きに着目したダイヤモンドパスゲーム）に取り組んだ。このタスクゲームを通して、子どもたちは「味方の動きをよく見ること」「守備者の動きをよく見ること」「仲間と連携して守備者をかわすこと」ができるようになってきた。簡略されたゲームの中でもフリーの味方にパスを出し、「ボールを運ぶ」動きが見られた。しかし、ここでは「パスを出すこと」を連続させることができず、『シュートチャンスをつくる』ことができなかった。振り返りでは、「パスを受けた後、次にパスを出す人を見つけられなかった」「パスを出したら、安心してしまって、動きが止まってしまった」という声が聞かれた。そこで、「守備者を入れないように立つ」ことを目指して、ポジショニング練習（パスを受ける側の動きに着目したダイヤモンドパスゲーム）に取り組んだ。本時の指導の工夫や実際にねらいに迫るための手立てはどうであったか、ご意見をお聞かせいただきたい。

今回の「新学習指導要領の具現化」とは少し話がそれるが、最後に本校の体育授業について付け加えさせていただきたい。本校では、3年生から6年生までの16学級が、今日5年生が授業した第1体育館を使用している。そのため、1時間あたり2つのクラスに体育館が割り当てられ、常に2クラス合同（2C2T）で体育授業を行っている。県内には本校のように、学校事情により、日常的に合同体育を行っている学校があると思う。私たちは、合同体育の授業づくりについても本日参観してくださった先生方の実践やお考えをお聞きし、日々の実践に生かしたいという思いもあり、5年生での授業はTT授業を提示することにした。

また、学習指導案の「6本時の学習」では、「教師の支援」を「TS」「TK」に分けて作成した。これは、10月5日に行った本校の計画訪問においてそれぞれの支援が分かる形式にした方がよいという意見を受けて作成し直したものである。この点に関しても、よりよい実践や提案があったらご紹介いただきたい。

4 質疑応答・協議

Q：秋大附属小 木 谷

本時のねらいで4年生では「守備者がいないように動く」5年生では「守備者を入れないように立つ」という新学習指導要領解説にある文言と同じような言葉でねらいが書かれてある。微妙なニュアンスの違いがあるが、新学習指導要領解説に書かれてある文言をそれぞれの学年でどのように解釈して、系統立てて指導したのか教えてもらえればこれからの実践につながると思い、質問した。

Q：下北手小 小野寺

4年生の本時のめあてで、指導案には「ボールを持っている人と自分との間に守りを入れないように動くことに気をつけてゲームをしよう」とある。しかし今日提示したのは「フリーの場所へすばやく動こう」であった。変更について意図があれば教えてほしい。

A：4年 高橋

4年生のめあての「ボールを持っている人と自分との間に守備者を入れないようにして動くことができる」というねらいは、新学習指導要領をそのままとっている。パスをもらうために立った場所に守りがいれらなければならないので、立ったままではなく自分からどこに動けばいいか、場所を探して動こうとすれば「できる」ととらえ、これができるよいいのではないかと考えた。

指導案のめあてと子どもに提示しためあてに違いがあったことは、より子どもたちに分かりやすく、すっとんと落ちるような形に提示できればと考え、変えた。

A：5年 佐藤

3・4年生までに学習している「守備者がいないように移動すること」という技能を生かして、3・4年生では守備者があまり動けない状況、まだ守備の技能が十分に育っていない状況であるので、オフェンス側のボールを受ける方が移動するととらえた。5・6年生のところでは、守備者が少しずつ育ってきて、ボールの動きに合わせて守備者も移動するのではないかと、その移動した守備者を間に入れないように立つということが5・6年生で求められている技能ではないかというようにとらえて、今回の授業を作ってきた。授業づくりに際しても「移動すること」と「立つこと」の違いは何か、悩みながら作成した状況である。どのように新学習指導要領を読み取っているのか教えてほしい。

A：5年 加藤

今日のゲームを見てもらうと分かるように、移動して立ち、またディフェンスが動いたことによって、また移動して立つというこの連続の動きは、ゴール型運動の特性の動きになってきていると思う。3・4年生の段階の「移動すること」と5・6年生の「立つこと」の動きの質という面でも違いがあるのではないかと思う。

Q：秋大附属小 木谷

詳しく文言を読んでいたというわけではなく、今日指導案を見たところ違った表現、微妙な表現の違いがある。そして新学習指導要領解説を見ると、この言葉がしっかり載っている。どうとらえていったらよいか自分も疑問に思っていた。解説をどう読み説いていけばいいのかわかっているのか聞いてみたい。

Q：愛知県東刈谷小 酒井

5年生でタスクゲームやドリルゲームを通して子どもの動きは大分よくなっていると感じた。低位の子どもたち（動きがなかなか分からない）に対して教師の手立てはどうしているのか。注意して指導していること、集めた時にはどうしたらよいか話しているが、できない子どもはできずにぼーっとなっている。

また、うまい子がすごくいい動きをしているので、上手な子どもの動きは、下の学年から積みあげてきた成果なのか、それともタスクゲームを通して子どもたちが全体的に上達していったのか知りたい。

A：5年 加藤

昨年度から一緒に子どもたちと体育の学習をしている。昨年度からの取組になるかもしれないが、子どもたちは昨年度から今年度にかけてハンドボールをもとにした易しいゲーム、タグラグビーのような易しいゲームを行っている。攻守交代が繰り返し行われるように、基本的ボール操作とボールを持たないときの動きの習得を目指して学習を進めてきた。最初は鬼遊び的な感じが強かったので、動けない子どもたちはいなかった。みんなが元気に動いていた。ボール

スキルの面になると個人差が大きくなってきた。特にゲームの中では味方にボールを出す、投げる手と反対側の足を一步踏み出してボールを投げるなどの基本的な動きについては指導が必要だと感じていた。ゴール型の学習の中では個別に指導することが難しいのではないかと考え、投げたり捕ったりするような学習のときに重点的に指導していくことを考えてやっていた。本校の児童は新体カテストで全体的にソフトボール投げの数字が低い傾向があり、頭を悩ませていた。全体的にこのような傾向があるということで、単元を中心に授業をしてきた。一斉指導をしてもなかなか個々の差は埋まらない。全体か個別かという考え方も必要となってくる。今日もボールを持たない動きのねらいだったが、教師の声かけの中では個別的に指導はしていた。個別の声かけについて、効果的な個への対応があったら教えてほしい。

A：4年 高橋

できない子どもには、ドリルゲームの内容・質もその子に合わせて易しくするような声かけをした。(パスが捕れない子にはゆっくりやさしいトスをしてあげるように周りの子がサポートする。ゴールするの大きさも背面に大きなボードを用意して当てやすいようにし、安心して投げられるようにするなど)しかし、上位の子が満足しないことになるので、ペットボトルを用意するなどして、両者に対応できるようなものを考えて、日々行っている。技能の差は大きいので、他のやり方があれば教えてほしい。

A：愛知県刈谷小学校 酒井

個別にタスクゲームを中心に行うようにしたり、アップをタスクゲーム的なものにしたたり、ドリルにしていくという形で準備運動というものよりもドリル練習で簡易的にし単元を通して行い、最終ゲームにもっていくというゲームを中心に取り入れたり、学年によってタスクゲームが正式なゲームに近いものになったり、タスクゲームで終わるなど、学年によって違う。

個別的ということに関して、グループ活動中心に教え合い活動をできるだけ取り入れるようにしている。分析カードなどいろいろあったが、子どもたちで話し合いさせる場を設けている。授業をやってもどうしても数人にしか目がいかない。上位の子どもたちが教え合い活動をするので、他の子が分かる。ノートにも「〇〇君がこんなことを言ってくれたから自信がついた」とか、書かれている。また、コツを紹介して貼っていく。子どもと教師の言葉がニュアンス的に違うが、子どもなりの言葉で子どもたちの間で理解し合う。そのようなことも認めながらやっている。低位の子どもはノートに「このようなことをやったら少しできるようになった」「ほめられてうれしい」とあり、自信をもって運動に取り組む。上位の子どもは「教えた友達ができるようになってうれしかった」とグループの子がレベルを上げることをやっている。グループ編成は少し大変だがこのような形を作っている。

Q：千畑南小 高山

78名の授業でとても鍛えられた子どもたちであった。とても楽しそうだった。

視点2について、スキルアップドリルを見て、得意でなさそうな子どもを中心にピックアップし、どう動いて行動しているか、子どもを絞って動きを中心に見た。授業の中でどのように動き、どんなことをしているかということを見た。その子どもたちは、シュートが入ると手をたたいていた。ダイヤモンドパスではぎこちないが、楽しく意欲的に動いていた。上手にできた時の顔がなんとも言えなかった。銀河ゲームではいい顔でがんばっていた。子どもの動きや顔を見ると、視点2のボール運動の楽しさや喜びにふれて進んで運動に取り組んでいたということは十分達成していた。しかし、パスミスをすると舌打ちをする態度が見られた。チームの中で下位の子と上位の子がどのようにやっていくかがこのあと大事ではないかと思う。いずれ

にしても子どもたちが楽しそうに動いていて、とてもよい授業であった。

視点1の指導と評価のことについて、本時のねらいが「関心・意欲・態度」「技能」と二つある。評価項目も二つあげられている。何をもって見ていくのか。行動観察と分析カードとあるが、分析カードはおそらく子どもたちが一生懸命書いていたものだと思うが、よく見て書いていたと思った。行動観察は教師が行うのか、子どもたちが行うのか。そのあたりがよくわからない。また、教師が一人一人を見るのは不可能なことであると思うが、技能の評価をするとき、どのような工夫をしているのか、どのように評価していくつもりなのか教えてほしい。素晴らしい授業でいいものを見させてもらった。

A：5年 佐藤

行動観察は教師が子どもの観察を見取って評価する。子どもたちの行動を観察して評価していくということで、このような書き方にした。78人いるので子どもたちが観察した分析カードをもとに、子どもたちの目も活用しながら評価をしていきたいと考えている。

技能の評価の見取りは、指導案上では「銀河ゲーム」のところで評価を行うと書いているが、その前に持っているダイヤモンドパスゲームの中、それから銀河ゲームの中、両方の観察を通して評価を行っていききたいと考えている。投げる動作がぎこちない子どもには、このようにパスを出してほしい、パスを受けてほしいという思いが私たちの中にもある。スキルアップドリルのところで四角パスゲームやシュートゲームの時に、子どもが後ろで並んでいる状態のところ、個別に指導を行っているところである。

舌打ちをした子どもはスポ少でハンドボールをやっている。ハンドボールの技能が高い子ども。4・5年生でボール運動をやってきたときに、周りよりも自分はずごくできるということを実感として持っている子どもで、周りに高いことを要求するのが今までなかった。「みんなで決めようノーマークシュート」の学習に入ってから、女子の動きが格段によくなり、誰にでもパスができるという状況が生まれたために、スポ少のメンバーに対するような要求が子どもの中に出てきたのではないかと思う。

Q：仁井田小 安田

協議1に指導と評価ということがあがるが、参考までに教えてほしい。

新学習指導要領の解釈の中で子どもに分かりやすく、そして指導内容を明確にして子どもに実際に手立てを講じて指導し、見取る評価活動がある。今回の指導案の中でも単元構造図では、指導要領の文言をとらえながら、指導計画としてうまく体系化したものがある。小・中と3枚続いているのを見て、評価の真ん中あたり、右半分の方に、単元全体を通してこの部分は何時から何時までは特にこの評価をするというように、3観点の中で特に見取れる場面で矢印を引っ張って評価の計画をしていると思うが、評価はその時にできるものと、その時間の活動はしているが、その何時間か後に子どもの伸びを見取る、熟成評価があると聞いたことがある。そうしたときに4年生の授業の評価の計画のところ、ずっと横に矢印が長く続いている。重点にしている評価の項目はあるが、他を見るともう少しピンポイントで絞られているようだが、そのあたりがすっきりしないので教えてほしい。

A：4年 高橋

単元構想図を悩んで作った。メインとして評価する時間は単元構造図の下に数字が並んでいるが、その部分で評価を行うようにしている。単元全体を通して子どもたちは反復することを通し、技能の定着・伸びが見られてくるので、その動きの要素が含まれる運動があれば、そこでもずっと見ていきたいという思いでいる。例えば運動の技能の1番のところであれば、シュー

トゾーンでボールを持った時に体を向けることができるという動きが出てくるのは、2時間目の試しのゲームから行っていたので、ここから最後のメインゲーム・リーグ戦まではその動きの要素は必ず見えてくるので、矢印をつけていた。他の方では短い矢印になっているが、動きが見られる場面があれば子どもたちの技能の評価を全体的にでも見取っていきたいと思って設定した。

A：5年 佐藤

単元構想図について昨年12月に聞いた。今回作成に当たって試作というつもりで作成した。大曲中学校に文部科学省の調査官の方が来て指導してもらったときに、聞いてきた。まだまだ発展していく資料だと思っている。今、現段階での作成資料ということで提案したので、このあともっと改良されてよりよい形ができてくるのではないかと。分かりやすい形があれば提案してほしい。

A：5年 加藤

長いスパンで矢印を考えていた。単元を組むにあたって、ねらいが評価できる場面で行うというようなことを考えるとそういう学習活動、単元計画になっていくと思う。

今日できたか、できなかったか、というのは、パスがつながっていれば、ずれて動いていたことだと思う。上のパスは禁止しているので、ずれて動いていればそれが達成されていたかすぐ分かる、というような見取りをしていた。子どもたちもそうしていた。つまり、評価がしやすい場面・活動というのは必ずあると思うので、そこはピンポイントで行いたいと思う。

熟成評価については、特に小学生ならではの発達の段階の中で、5・6年生よりは3・4年生の方がスパンを広くしてあげた方が有効的ではないかと思う。中学校、高等学校という段階に移行するにあたって、その時間の評価など矢印や形が狭まっていくのではないかと作成しながら考えた。

Q：宮城県岩沼小 今野

子どもの集中力はすばらしい。進んで運動に取り組んでいた。授業に入り、めあての確認をし、練習、ゲームの流れなどしっかりしていた。どのように動いたらパスがもらえるのかという動きのコツ、これの確認もしていたので、子どもたちはその動きを意識して取り組んでいた。評価カードで一人一人反省をしていたのが、次の学習にも生きるものになっていた。

質問：指導案で5年生の「ふりかえる」の場面。分析カードを活用しながらペアグループ同士アドバイスし合えるように働きかける、という評価の部分だが、分析カードについてどのようなものか教えてほしい。

また、ペア同士でアドバイスし合えるようにということだが、ペアを行う上で配慮していることや、そのことにより子どもの変容はどのようなものだったのか教えてほしい。

A：5年 佐藤

ペアグループ同士での教え合いを本実践で行ってきた。グループで教え合う。分析カードはペアグループを決めたとき、1班が試合をしている時に2班が分析カードを書く、2班が試合している間は1班を書く、というように互いに見合うように活動を進めていった。分析カードは子どもが書きやすいようにという思いで何度も作り直した。今日使った分析カードでは、誰を見るか決める、その子の分析をずっとし続ける、という形をとっている。守る人とずれてパスをもらおうというねらいだったので、守る人とずれてその人がパスをもらえた回数、何回パスキャッチしたか、ということをも成功・残念という方法で○×や「正」の時を書いて記録している。成功回数、残念ながらパスが通らなかった回数を見て、ゲームを分析してアドバイス

を記述するようにしている。記述は、コツとして3つ押さえた①相手の動きをよく見る②空いている場所を見つける③空いている場所にすばやく動く、この中の①がよくできていたら、「①OK」とか、「②もう少しがんばろう」など、短く相手に伝わるよう、書けるようにという思いで作ってきた。学習カードの中にも振り返りを書くところがあって、自己評価と相互評価(友達からの評価)を書く部分を作り、分析カードをもとに友達は自分のことをどのように見取ってくれていたのか、毎時間記録し、伸びてきたということを実感できるようにという思いで学習カードを作成している。

5 指導助言

秋田県教育庁保健体育課 主任指導主事 越中谷 俊 悦

○本日の授業参観の視点(1)(2)に関して

- (1) 新学習指導要領に示された指導内容を確実に定着させるために、目標・内容・授業・評価の一体化が図られた授業であったか。

「目標・内容・授業・評価の一体化」については、新学習指導要領及び解説から目標及び内容を的確に読み取ることが第一に大事なことである。これは、各学校で当該学年はもちろん、他の学年のものも合わせて一覧表にまとめ見比べるなどして、確実に読み取るようにしなければならない。次に、授業場面においては、「ねらい(学習課題)、児童がもつめあて、学習活動、振り返り」を一体のものとするのが大切である。視点(1)に関しては、「明確な目標」「明確なねらい」が大事なポイントの一つである。

- (2) 子どもたちは、ゲーム(ゴール型ゲーム)・ボール運動(ゴール型)の楽しさや喜びにふれ、進んで運動に取り組むことができていたか。

本時で見られた児童の姿からは、第4学年、第5学年、どちらの授業でも、「進んで取り組むこと」はよくできていた。このことを見取る場合は、「関・意・態」の内容(愛好的態度、協力・公正の態度、安全の態度)に留意することが大切である。

○本大会の研究重点に関して

- (1) 小学校・中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化について

指導内容の体系化については、今回の新小学校学習指導要領解説で改訂の要点の一つとして示されており、既に、文部科学省が行っていることであるが、本大会では授業段階における各学校種の指導内容の関連について研究することができたと考える。

新小学校学習指導要領体育科では、ゴール型ゲームやゴール型の授業に関して、新たに、「易しいゲーム」や「簡易化されたゲーム」という内容、ゲームのとらえ方が示された。今後、各地域の研究会や各小学校においては、授業実践を積み重ね、「易しいゲーム」や「簡易化されたゲーム」についての理解を一層深めるとともに、これらが、一般化されたゲームにどうつながっていくかについて研究を深めていただければありがたいと思う。

小・中・高等学校を見通した指導内容の体系化については、指導内容である「技能」「態度」「思考・判断」等を一覧表などに取りまとめるなどして、児童生徒の発達の段階等の違いや関連などを捉え、バランスよく育むことに留意し、授業実践に反映させていくことが大切である。なお、一覧表などの作成の際は、体育主任が、ぜひ、リーダーとなって取り組んでくださること

をお願いしたい。

(2) 明確化された指導内容の確実な定着について

今回、新小学校学習指導要領及び解説体育編には、二学年間の中で指導すべき内容として「技能」「態度」「思考・判断」が明確に示されるとともに、特に、技能に関しては、児童に身に付けさせたい動きが「・」印で詳しく説明されている。

内容の取扱いに関しては、新小学校学習指導要領及び解説体育編に基づきながら、二学年間を見通し弾力的にする必要がある。また、児童の実態を踏まえ確実に定着させるために、単元計画の検討や指導方法について、学校としての考え方を明らかにして日々の授業実践を展開する必要がある。

本日の授業では、授業づくりに当たり、「単元構造図」を作成して授業構想を組み立てられた。授業構想の組み立てには、各小学校で様々な方法がとられていると思うが、この「単元構造図」の作成・活用も、指導内容的な確かな把握や具体的な単元の流れと手立ての検討などに適した方法の一つであり、今後、各学校で様々な方法を開発していただきたい。

今後、各小学校では、文部科学省が示した各学団の目標及び指導内容を的確に捉え、そして、児童の実態等を踏まえ、目標の具現化や指導内容の定着を図るために、自校に合った指導方法を工夫、開発していただきたい。また、併せて、新小学校学習指導要領及び解説体育編の内容理解も一層深めていただきたい。

○その他

(1) 学習評価に関する情報提供

文部科学省では、小学校の各教科及び領域等の新たな評価規準の作成例を平成22年度内に国立教育政策研究所のホームページにアップする予定である。学習評価に関する研究を深め、日々の授業に役立てるためにも、ぜひダウンロードして活用していただきたい。また、学習評価に関する実践事例集も発行する予定であり、授業改善のための活用をお願いしたい。

(2) 新小学校学習指導要領全面実施に向けて、各研究団体や各小学校に、留意・配慮していただきたい点

- ① 新小学校学習指導要領解説体育編の「内容の取扱い」を踏まえて、年間指導計画を再点検すること。
- ② 新小学校学習指導要領解説体育編にある目標及び内容について、理解を一層深めること。
- ③ 県教育庁保健体育課で行っている、学校体育の充実にかかわる諸事業・取組（テクニカルサポート事業、有名スポーツ選手活用事業、その他事業）を積極的に活用していただければありがたい。

各小学校の体育主任、健康教育にかかわる先生方は、自校の体育科や健康教育の年間指導計画と各学年・各学級の授業実践とをつなぐ役割が期待されている。新学習指導要領の全面実施となる平成23年度は大いにお力を発揮していただき、ご活躍をお願いしたい。

中学校部会



中学校部会記録

1 指導者・授業者等紹介

指導者	秋田県教育庁南教育事務所	指導主事	大沼 一 義
授業者	大仙市立大曲中学校	教諭	藤倉 修
責任者	大仙市立太田中学校	教頭	山本 暢三 (大会実行副委員長)
司会者	美郷町立仙南中学校	教頭	今川 亨
司会者	大仙市立西仙北東中学校	教頭	柴田 衛
研究説明	大仙市立大曲中学校	教諭	佐藤 秀敏
記録者	大仙市立豊成中学校	教諭	鈴木 良二
記録者	美郷町立仙南中学校	教諭	鈴木 衛

2 研究説明

～ 研究主題 「わかる・できる・伸びる」楽しさを味わう体育学習 ～

○研究主題の設定理由

基本的・基礎的な知識や技能、態度、思考・判断を身に付け、実生活で運動を豊かに実践していくための資質・能力を培うための学習指導の在り方を工夫していくことが求められる。また同時に、コミュニケーション能力を育成することや筋道を立て練習や作戦を考え、改善する方法などを互いに話し合う活動を通じて、論理的思考力をはぐくむことが求められると考え、本主題を設定した。

○研究仮説

どの時期に何をどのようにして身に付けさせるかを明確にした上で、児童生徒に、「どうすればできるようになるかがわかる」「実際にできるようになる」学習を保障すること、そして、その間に身に付けたり学んだりしたことを生かして更により多くの成功体験をさせる「伸びる」自分を実感させることができれば、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことができるであろう。

○研究の重点

(1) 小学校、中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化を図る

- ① 12年間を見通した年間指導計画の作成
- ② ゴール型の観点別系統表の作成

- (2) 明確化された指導内容を確実に定着させる
 - ①ゴール型の単元計画の構造図を作成
 - ②ゲームの局面に着目した学習指導の工夫
- (3) コミュニケーション能力を高め、論理的思考力をはぐくむ
 - ①練習方法や作戦についての話し合い活動の充実
 - ②兄弟チーム等による応援や客観的な評価（アドバイス）の実施
 - ③試合運営等を通じた望ましい態度の育成

3 授業説明

○指導するにあたり

ゴール型「バスケットボール」の学習を進めるにあたり、単元計画の構造図の作成に取りかかった。また、「ボールを運ぶ」「シュートチャンスを作る」「シュートを決める」の3つの局面を意識したゲームやドリルのスキルアップメニューを作成し、学習内容の習熟を図りながら新たなメニューを追加していった。メニューの目的そして、それによって得られる技能や知識を身に付け、効果的な学習が進められるように指導した。

本時のねらいは「ゴール前の空いている場所をカバーですること」であり、その課題解決のために生徒間の話し合いや動きながらの確認活動、実際のアウトナンバーゲームなどによってその動きができているかを確認する段階的な学習が行われるようにした。

自他共に守備位置の確認をするために「ボール」「マーク」という声かけを積極的に行うように指導した。

3：3のオールコートゲームにした理由は、バスケットボールの醍醐味である攻守の入れ替えを味わわせたいと思い、その中で3：2を承知させ、課題に迫る活動にしたいと考えたからである。ゴール前を共通で認識させるために、ゴール周辺を赤のアイントープで印をつけ、ゴール前を明確にし、観察しやすいようにした。また、ルールについては、ゴール前をカバーする動きが出てくるように制限をして指導した。

○本時の反省

ねらいである「ゴール前の空いている場所のカバー」を達成させるために行った3：3のゲームについて、よりゴール前が空いてカバーする必要性があるという状況を作るために、さらなるルール制限が必要だったと感じた。例えば、3：3を3：2にできるように攻撃だけを行う生徒を1名決めるなど、意図的に3：2の状況を作ることができればもっとねらいに迫れたと感じた。

ゴール前の空いている場所で打ったシュートの本数を数えれば、守備側にとってねらいを達成できたかどうか確認することができた。本時の指導や工夫ねらいに迫る手立て等について指導していただきたい。

4 質疑応答・協議

◇：協和中 佐々木

ディフェンスを学習課題にした授業を今まで行ったことがなく、どのような内容になるのかと思っていた。クロスステップやサイドステップなど大事な基本的な技術をただ教えても生徒たちは興味・関心を持たない。今日の授業では、実際の試合を想定した内容のスキルアップとして取り入れていたことに感心した。また、「マーク」や「ボール」などの声かけによる技能の定着も盛り込まれていたため、勉強になった。

授業者からも説明があったが、兄弟チーム等を活用してホワイトボードにシュートを打たれた場所をチェックすれば、シュートを打たれている場所がわかるので、本時のねらいに迫ることができたかどうかを確認することができたと思う。

Q：成章中 阿部

シュートを打たせないようにディフェンスをがんばることは、バスケットボールのおもしろさやシュートを決める楽しさが損なわれるのではないか。ディフェンスをどの程度指導すればよいのか悩んでいる。今日の授業で、なぜディフェンスを中心とした活動を行ったのか、授業者の思いを聞かせてほしい。

A：大曲中 藤倉

1, 2年の内容で、新学習指導要領に示されている通り、シュートを決めるための授業をたくさん取り入れた。ディフェンスについては、ボールを持っている相手をマークすることでよかった。3年の内容で、今回初めて「ゴール前をカバーする」(ボールを持っていない相手をマークする)という内容が示された。

1, 2年生はシュートがしやすい環境でゲームを行い、バスケットボールの楽しさを指導すること。3年生以上は、今まで身に付けてきたシュート力を活用するために、ボールがないところの守備の仕方を学んで更にレベルの高いゲームを楽しませることが示されている。

守備側は、ゴール前をカバーできていれば、たとえシュートを決められていてもねらいは達成できたことになる。また、攻撃側は、シュートを決めれば今までの学習内容が達成できたことになるという考え方である。

Q：小坂中 佐藤

課題解決についてグループで話し合ったり、動きの確認をしたりしている活動を見せていただいた。3：2の状態で本時のねらいである「ゴール前のカバー」を十分に練習することができたと思う。後半の3：3では、守備側が1人増えた分、攻撃がしにくくなった。3Pライン外でのシュート禁止など制限ルールもあったが、外からのシュートが増えてきたことがあって、なかなか難しいと感じた。

A：大曲中 藤倉

技術的にもだいぶ伸びてきている。バスケットボールは攻撃側が有利という状況なので、制限ルールを用いて3：2で練習を行った。

先のことを考えて、後半は3：3の同じ人数で行った。アウトナンバーゲームだけでゲームを終えてしまうと、守備側にしてみるとカバーだけで絶対に対応できない。1：1で抜かれて

しまったときにカバーする。カバーすることにより、空いた人に更にカバーする。いわゆるカバーのローテーションが続く、理想的な状況をイメージし、3：3のゲームを行った。反省にあるように、ルールを制限を加えて3：2の状況が作れるようにすれば良かった。

◇：太田中山本

新学習指導要領の通り、高校の場でバスケットボールという競技がしっかりできるように3年生で指導しなくてはいけない。1、2年次にバスケットボールのシュートを決める楽しさを十分に指導し、3年次にマンツーマンやゾーンなどのディフェンスがあっても攻撃できるように指導していく必要がある。

3：2で練習したなら3：2でゲームを行う。これは1、2年生である。3年生の今の段階では、自分でマークをかわして、3：2の状況を作ることができてほしいという願いがあって3：3のゲームを取り入れたと思う。

Q：本荘東中 加藤

女子生徒を中心に授業を見ていたが、技術レベルが非常に高く、すばらしい集団だと感じた。新学習指導要領をふまえたレベルの高い授業で大変勉強になった。音楽を活用したり、ハイタッチしたりと雰囲気良く、生徒が伸び伸びと授業に参加していた。生徒たちが自分たちで戦術板を使って授業を進めていて感心させられた。

今日のねらいは「ゴール前をカバーすることができる」だったが、「ゴール前をカバーすることがわかる」ことが本時の段階ではないのか。教師が、本時のねらいの確認のところで全部話していた。生徒にやらせてみて、どうすればいいのか考えさせた方が良かったのでは。もし、前回の確認事項であれば、この場面でどこに行けばいいのか、生徒にやらせた方が良かったと思う。先生の発問の意図を教えてください。

3：3のゲームが焦点化されているが、3：3のオールコートよりもハーフコートで良かったと思う。全体計画の14／20時間であれば、5：5を取り入れても良いと思う。カバーの動きの説明と3：3の意図をもう一度教えてください。

A：大曲中 藤倉

3：2のカバーの動きについて教師がだいぶ触れたという点については、前時の段階でパスのボールの動きについて確認している。前時の確認のために1つのグループで行った。その後のグループの話し合いで実際の動きを確認させた。

3：3のオールコートについては、「攻守の連続性」が私の考えるバスケットボールの醍醐味である。攻守の入れ替え時に遅れる生徒がいるので、3：2の状況が生まれやすい。攻守の入れ替わりを味合わせたくて、オールコートで行った。

Q：本荘東中 加藤

攻守の入れ替えは私も大切だと思う。運動量の確保から考えると、少し足りない感じがする。兄弟チームがあって、観察している人や審判を行っている人もいてほとんどの人が役割があっというと思うが、もし、5：5なら男女各10人の20人動けることになる。ハーフであれば、24人運動することができる。できるだけ多くの人に汗をかかせたいというのが私の考えである。

A：大曲中 藤 倉

3：3のオールコートであれば、運動量は確保できると思う。技能面だけではなく、態度や知識、思考・判断という面からも並行して学習させたかった。

Q：鷹巣南中 渡部

3：3のゲームが非常に有効だった。女子の方を中心に見ていた。3人なので、休むことができずに一生懸命カバーをしなければいけない状況だったので良かった。シュートも決まっており、楽しさの面でも達成できていたと思う。

バスケットボール部に所属している人もいると思うが、話し合いの時やゲームの時に部活動でやっている人をもっと全面的に出した方が良かったのではと感じた。

A：大曲中 藤 倉

バスケット部員を均等になるようにチームを作っている。また、同じくらいのレベルになるように分けている。シュートは、ほぼ全員ができるが、よいパスを出す動きがなかなか難しいので、パスを出す中心として活動させている。話し合いでもバスケット部員を中心に行うが、あまりにも出すぎるとほかの人の意見が出てこなくなる。お互いの意見を出し合いながら作戦や練習できるように指導している。

Q：大館市立東中 板 場

単元計画の構造図の完成度の高さに驚いた。授業で次に何をやるかが一目でわかり、すごく参考になる資料だった。本時のねらいに迫る具体的な手立てとして、ゴール前に印をつけることや制限ルールを用いることで必然的にゴール前の空間を作り出すことができていた。

指導内容を明確にして、確実に定着させる。本時の指導内容がはっきりしているので、毎時間、技能の評価が出てくるのか教えていただきたい。

A：大曲中 藤 倉

現段階の評価に関しては、様々な意見があり、はっきりとしたものがまだでていない。今回の内容としては、技能、態度、知識・思考・判断の3つの観点で示されている。しかし、従来通りの方がいいのではないかという考えもある。課題解決に向けて、どの観点で評価するのかは、指導の仕方によって変わってくるであろう。

5 指導助言

秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 大 沼 一 義

大曲仙北体育研究会では、「『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習」の研究主題のもと、小学校・中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化、明確化された指導内容の確実な定着、コミュニケーション能力及び論理的思考力の育成を研究の重点とし、これまで研究を重ねてきた。また、大曲中学校では平成21、22年度の2年間にわたり、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業の指定を受け、新学習指導要領の趣旨を実現するための教科指導の工夫改善の研究を進め、自校の体育科の研究主題と国立教育政策研究所の研究主題とをリンクさせながら指導内容の明確化や具体化、新学習指導要領に対応した年間計画、単元構造図の作成を中心

に他教科からの視点も加え、学校全体で研究を推進している。

本日の授業についても、教育課程調査官より指導していただいたものである。教育課程指定校事業の大曲中学校の取り組み内容を紹介しながら、本日の授業について振り返りたい。参加者の皆様と新学習指導要領に対応した授業づくりということを確認していきたい。

研究のイメージとして、新学習指導要領の趣旨を具現化するための指導方法の工夫改善等について大曲中学校で研究テーマを設定し、授業実践を通して評価規準や評価方法等の工夫・改善を図り、その取り組みの成果を全国に向けて公表するものである。

指定を受けて2つの研究テーマを設定した。発達の段階に応じて明確化された指導内容を実現するための単元計画と学習内容の研究である。もう1つは、新学習指導要領の解説に記されている例示を具現化するための指導方法及び評価についてである。新学習指導要領を理解するために読み合わせを行ったり、年間計画の作成、単元構造図の作成、成果発表会に向けた資料のまとめ等、その一部を今回の資料として提示した。

具体的な授業実践について、体育分野が2領域で保健分野が単元1ということで3つの授業提示を求められた。今回は球技「ゴール型」だったが、10月の調査官による指定校訪問時には、体づくり運動と保健分野の新しく規定された医薬品の利用を含む、小単元：保健・医療機関や医薬品の利用についての授業を提示した。

本日の協議の視点でもある目標、内容、授業、評価の一体化を目指した単元計画の検討について説明します。資料集に盛り込まれているが、新学習指導要領に対応した単元構造図を作成した。この単元構造図を作成したことによって、解説に示されている例示と学習内容、そして評価規準の整合性を図った指導が可能になった。教育課程調査官は、片手に学習指導要領の解説を持ち、もうひとつの手に学習指導案を持ち、そして、目で授業を追っていく。縦と横の関係を意識しながら授業を見ていたことが印象に残っている。

単元構造図については、大曲中学校の資料と合わせて説明します。Aゾーンは、新学習指導要領及び解説の理解ということで、学習指導要領及び解説の転記、当該学年の指導内容の精選、授業のポイントの作成といった作業があります。Bゾーンには、中心となる学習内容の特定であり、「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」の内容がバランス良く示されている。Cゾーンには、単元計画の構想が書かれている。設定した学習内容に応じて、どのような学習方法を用いるのかを改めて検討する場所になっている。Dゾーンには、評価規準の検討が書かれる。先ほど「技能」だけ評価していくのかという質問があったが、そうではない。学習評価の資料集については、この後、国から出される予定である。参考にしてほしい。調査官の話によると「技能」と「態度」については、ある程度熟成させてから評価するという考えがある。つまり、今日の授業でカバーする動きを教えたから、すぐにできるものではない。その単元を通して指導していく中で、子どもたちの状態が良くなったところで評価していくことが望ましい。ただし、「知識、思考・判断」については、即時評価ができるのではないかという考えもある。評価に関して現段階では、検証中である。

本日の授業については、この単元構造図を活用したことによって、解説に示されている例示や学習内容、そして、評価規準の整合性が図られていた。授業導入のスキルアップメニューを行う場面では、ボールを持つ動きの「・マークされていない味方にパスを出すこと」「・得点しやす

い空間にいる味方にパスを出すこと」という技能向上のためのスキルアップメニューを考案し、サーキット方式で取り組ませたことによって、一連の流れの中で技能を身に付けられるような工夫があり、本時のねらいの実現に向けたステップとなっている。実際に今日のねらいに関係のないメニューもあるが、単元を通して必ず触れる観点であれば、同じスキルアップメニューでも良いという調査官からの回答も受けた。中心となる学習活動においては、「技能」の指導に関しての発問または、声かけを授業者は良く検討していた。例示と評価規準の整合性を図るために子どもたちの気付きを大事にしているところが伝わってきた。発問することによって、子どもたちに考えさせる学習場面が生まれる。ここが新学習指導要領でねらっているところではないか。また、グループで話し合っている場面でも、話の視点にかかわる資料提示があり、「思考・判断」の指導にも生かされており、大変良かった。

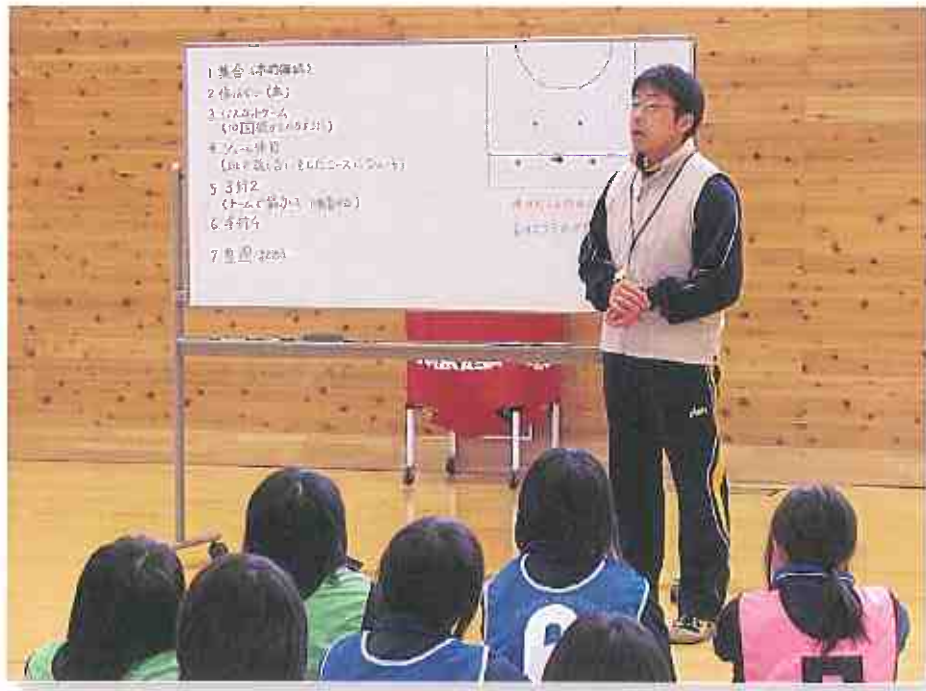
課題としては、新学習指導要領に示されている内容を生徒の実態に応じて工夫して指導することが求められることと、構造図の作成では、1つの指導方法にこだわりすぎないような指導方法を考案し取り入れていくことの2点かと思われる。バスケットボールのプロ選手を育てるわけではないので、学習内容に示されたものを先生方の独自の指導方法で教えていくことが大切である。解説に示された内容をどのような学習方法でどう評価していくかを研究することが指導者としてこれから必要である。これまでは、今持っている力でそして、新たに身に付けた力で楽しむため学習が多く行われてきた。これからは、実態の違う子どもたちにいろいろな学習モデルを当てはめていく指導方法を考えていくことが大事になってくる。体育学習は「技能」を中心にしながらも解説に示されている「態度」や「知識、思考・判断」をバランス良く教えていく。

体育学習は、小学校から引き継ぎ、中学校で確実に身に付けさせ、高等学校につないでいくという連続性がある。中学校の段階で文化としてのスポーツを教えていかななくてはならない。生涯スポーツというのは、文化の違いや差を超えてスポーツを楽しむことである。学校体育としては、共通の文化としてできる能力を身に付けさせる。体育は楽しいという愛好的な態度を育てることが生涯スポーツにつながっていくことは間違いない。

最後になるが、2年間にわたる国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業の指定校として継続研究をされている大曲中学校の先生方、授業者の藤倉修先生、また、研究公開の場として、第32回秋田県学校体育研究大会・大曲仙北大会を全面的にバックアップしていただいた大曲仙北体育研究会毛利会長さんはじめ、会員の皆様に改めて感謝を申し上げ、私の話を閉じます。

本日はありがとうございました。

高等学校部会



高等学校部会記録

1 指導者・授業者等紹介

指導者	秋田県教育庁保健体育課	指導主事	土井世紀
授業者	秋田県立大曲農業高等学校	教諭	山本力
司会者	秋田県立角館高等学校	教諭	藤木剛
司会者	秋田県立西仙北高等学校	教諭	高橋佳照
研究説明	秋田県立大曲農業高等学校	教諭	細井才智
記録者	秋田県立角館高等学校定時制	教諭	田口忠廣
記録者	秋田県立角館南高等学校	講師	川原賢一

2 研究説明

(1) ～ 研究主題「わかる・できる・伸びる」楽しさを味わう体育学習～

(2) 研究の重点

- ①小学校、中学校、及び高等学校を見通した指導内容の体系化を図る
- ②明確化された指導内容を確実に定着させる
- ③コミュニケーション能力を高め、論理的思考力をはぐくむ

(3) 大曲農業高等学校の取り組み

①「生きる力」をどのように育てていくのか

体育・保健体育は「生きる力」の3つの柱である

ア. 問題を解決する資質や能力

イ. 豊かな人間性

ウ. 健康や体力を育成することのできる教科であると認識している

②授業の目標、ねらいを明確にする

③運動量を確保するための授業を組み立てる

④指導と評価の一体化（P→D→C→Aサイクル）

ア. 生徒たちに身に付けさせたいことは何か（P）

イ. 身に付けさせたいことに向けてどのように授業を仕組み、指導するのか（D）

ウ. その指導の結果、身に付けさせたいことが身に付いたのか（C）

エ. 身につかなければ、どのような改善を図るのか（A）

⑤つまづきを予測・分析した指導を心がける

ア. 積極的にプレーに関わらない生徒のつまづき

イ. それに対する手立て

(4) 課題

今後、中学校との連携がより一層必要になってくる。新学習指導要領に対応していくためにも、テクニカルサポート事業の拡大が望ましいと考える。

山本 力（大曲小学校：ハンドボール）

石戸 将太（鳳中学校：柔道）

3 授業説明（授業者）

生活科学科1年40名の女子クラスである。ハンドボールの経験者はまったくいないが、現在ハンドボール部員が3名、運動部に所属している生徒は22名である。「スポーツは好きですか」というアンケートに対して約63%が好きと答えており、体力に自信のある生徒も過半数を超えている。新体力テストのハンドボール投げでは「15m以上投げることができる（項目別得点で6以上）」という生徒が全体で21名である。授業を行う前に「ハンドボールを知っていますか」という質問をしてみると、出身中学校にはハンドボール部が無く、見たり経験したりしたことのない生徒ばかりであるが、「中学校の授業で行ったことがある」と答えた生徒が4名だった。

ハンドボールは「ゴール型」の球技で、走・跳・投の運動を生かしながら相手ゴールにシュートして得点を競うスポーツである。個人の能力に応じてパス・ドリブル・フェイント・シュート等の技能を向上させることや、仲間と連携した動きを高めてゲームを展開できるようにすることが重要になる。

初期の段階では「ボール操作」に重点を置き、味方が操作しやすいパスを送ることや相手から奪われずに次のプレーを考えながらボールをキープしたり、ゴールの枠内にシュートをコントロールすることが大切になる。また、「ボールを持たないときの動き」では、味方にシュートさせるために守備者を引き付けたり、パスを出した後で再びパスを受ける動きが攻撃の面で必要になる。守備の面では味方ゴールキーパーとボール保持者を結んだ直線を中心に守ったり、ゴール前でシュートが来る所を予測してカバーしたりすることが大切になる。技能の高まりにより次の段階では、仲間と連携して作戦を立てながらどのようにしたら攻防が成功するかを考えたり工夫したりすることが必要になる。

集団で行う球技は、チームの能力に応じた作戦を立てながら勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、フェアプレー精神を大切に仲間と協力しながらプレーを成功させようとするのが重要である。

本単元では、ハンドボールの技術面やルールを理解している生徒が少ないため、「仲間と協力しながらシュートする方法」や「どのようにしたら相手を守れるか」を考えながら学習を進めていきたいと考えている。そのため、3対2の攻防を練習し、シュートまでいきやすい状況をつくりながら基本的な動き方をつかませたい。さらに正規のゲームに1歩近づけるために、4対4の攻防を行いながら「どのような動きをすれば得点に結びつくか」という攻撃の観点と、「どのようにすればシュートさせないですむか」という守備の観点について分けて考えさせたい。

4 質疑応答・協議

Q：秋田高 佐 藤

ゴールポストの四隅につけてある丸形の輪（マーカー）は本来何に使用するもので、どこで購入したか、利用したいので教えてほしい。

A：大曲農業高 山 本

分からない。授業の中で四隅を狙わせるため、教材を探していて学校にあった物を利用している。最初はゼッケンを考えたが、上部は適していたが、下部が適さなかった。

Q：由利高 佐 藤

とてもテンポの良い流れのある授業を展開しているが、授業を進め、観察・評価の段階で、生徒が自分でできたと感じる部分と、教師ができたと判断する部分、その一致する場面をどう帳尻合わせしながら計画を進めているのか。観察だけで判断して計画通り進めているのか。それとも、生徒に合わせて状況を判断しながら計画をずらして進めているのか。

A：大曲農業高 山 本

今日みたいに順調に毎時間進んでいるわけではない。ボールを使っての基本動作段階までは出来ても出来なくても生徒は興味を持って取り組んでいる。もう少し頑張れば出来そうな感覚の時に次回見て評価するからと伝え指導している。しかし、パス、キャッチになるとミスが出はじめおもしろくない、嫌だと感じるようになる。そこで、簡単なアドバイスをすることでできるようになって楽しくなる。ある程度の生徒が目標を達成しそうな部分を全体の共通テストとして、できたか、できないのかをチェック項目に入れて評価している。

Q：角館高 牧 野

ハンドボールに関しては、ほとんどの生徒が素人だと思う。しかし、全ての班で偏りがなく、バランスの良い班編成だと感じた。班編成で参考に行っていることや工夫していることがあるか。

A：大曲農業高 山 本

特にない。5人8列で整列しているので、単純に5人8班になっている。ハンドボール部員2人をゴールキーパーにして抜くと、あとは全員素人になる。

Q：大曲工業高 打 川

ハンドボールの基本的な動作で大切なのが、パスキャッチだと思うが、女子生徒は、投げたり捕ったりする動作は苦手だと思う。それが、みんな投げられるし、捕れるし、シュートを打っても速い球を投げてシュートを打っていたので、どう「できる」ように指導しているか。

A：大曲農業高 山 本

高校生の女子は2号級のボールを使用する。しかし、部活動の生徒でさえテーピングをして両面テープを巻いて手がボールにくいつくような状況でなければパスキャッチあるいはシュートができないような状況である。そのボールを使って最初授業をやった。当然生徒はつかめなかった。近くのスポーツ少年団に行き小学校用の一回り小さいボールを借りようかと思ったが、できるだけ工夫して今ある状況の中でやりたいと思った。そこで、ボールの空気圧が少ない、部活では捨ててしまうようなボールをわざと取っておいて使わせた。しかし、新たな問題が発生した。生徒達はバスケット慣れしているためボールをキャッチした瞬間ドリブルするが

弾まない。だから、なるべくドリブルを使用しないようにし、パスキャッチと動きで動きなさいと指導してきた。偶然のつまずきから感じた工夫である。

Q：十和田高 茂 木

女子の体力を高めるために授業で工夫している点は何か。

A：大曲農業高 山 本

50分授業の内30分以上は動く時間を確保しようということで、それを目標に授業の内容を設定している。工夫としてできることは、個人個人で始めから指導すると、どうしても運動が好き、嫌い、やりたい、やりたくないの生徒が出てくる。授業の段階が進むにつれて、その中でグループを作って、グループに課題を与え、グループで課題を解決させる。グループ毎に勝つことや点数が入ることなどの目標の設定の仕方を教え、やりたくない、できない生徒もやらなくてはいけない状況を設定させている。そのため、運動量が増え、一生懸命動く生徒が増えてきた。

◇：花輪高 佐 藤

ハンドボールの授業を初めて見させていただき、貴重な体験になった。運動量が非常に多く規律もとれている。また、授業内容で2つの視点についてグループで話し合いをして課題を持って取り組んでいたりと、生徒達が活発に動いていて全体的に非常に良い授業だったと思う。

5 指導助言

秋田県教育庁保健体育課 指導主事 土 井 世 紀

本来「授業」は部活動と違って、運動の好きな生徒、嫌いな生徒、得意な生徒、苦手な生徒、いろいろな生徒がいるが、今、目の前にいる生徒が、授業を通して出来なかったことが出来るようになったり、何よりも、上手くなったり、運動の仕方が分かるようになったりすることによって、仲間と共に有能感や達成感を味わったりすることが大事であり、それが求められているのが学校体育の在り方だと考える。

本日の授業は、15時間中の10時間目でだいぶ生徒たちもハンドボールという教材に慣れてきた段階ではあったが、指導案の中にもあるように、ハンドボールの説明で、「サッカーを足ではなく手を使って行う競技」と説明したとあるが、細かいハンドボールのルールは毎回のミニゲームで教えていけばいい事であって、ただ、サッカーというイメージは男子生徒の方では、サッカーを経験したことがある生徒であればイメージしやすいが、その部分、女子にはイメージさせるのは工夫であって、なかなか大変だと思うので今後も取り組んでほしい。

こちらからも、男女共修が基本になってくる。教材を取り上げるときに、誰でもできる、わかるが大前提だということになってくる。今日の授業を見て、後半の部分の出来るという点に関して、班分けについては特に工夫がないということだったが、チーム毎にシュート練習を行った時に体育館を四分分割して4つの班でシュート練習やパスカットゲームをやっていたが、レベル的には、生徒はどの班も上手くやっていたが、ただ、場の工夫という点では、ゴールが2つしかないところ

ろに人数が多く、半分に分けてシュートしていた点で効率が悪いと感じた。

ハンドボールの安全性を考えたときにキーパーをハンドボール部員にしていたが、なかなかゴールが決まる場面が少なかったので、安全面を考えたら仕方ないと思うが、その辺も工夫が必要である。

シュートの中でバウンドシュートは効果的だった。背の高いゴールキーパーと低いキーパーがいたが、シュートしている方を代えてみるなどの工夫があればもっと良かった。

生徒のプレーに対して褒めた際に、ただ言葉で褒めるだけではなく、時間を止めて生徒を集め、良かったプレーを紹介するような形をとれば良かったと思う。

さて、今回は「わかる、できる、伸びる」楽しさを味わう体育学習の研究主題の下、授業を提示していただいたが、ここで、よりよい体育授業の実践のためのポイントを4点紹介したい。

授業をつくる上で大事なものは、単元目標を達成するために、授業づくりの基本である、指導と評価の一体化ということを確認していきたい。

1つめは、子どもたちに身に付けさせたいことは何か、授業をつくる上で何を身に付けさせるのかという目標を設定することが大変重要である。

2つめは、身に付けさせたいことに向けてどのように授業を仕組み、指導するのか。ここが、我々教師の腕の見せ所です。どのような学習形態で行うのか、どのような順番で行うのか、本時の目標達成のために十分な指導計画が必要です。

3つめは、その指導の結果、身に付けさせたいことが果たして身に付いたのか。

4つめは、それを受けて、身に付かなければ、どのような改善を図るのか。この4つ、いわゆる「PDCA」このサイクルが非常に重要である。

今後、新しい学習指導要領による授業展開を実施していかなければいけない。高等学校においては、平成25年から学年進行で導入されることになっている。まだ先ではなく、各学校で新しい学習指導要領をよく理解し、体育学習の実践に努めてほしい。

参加者の声

< 小学校 >

1 研究授業について

- 指導すべき内容が体系化されており、それが子どもたちの動き（ボールハンドリング、ボールを保持しない時の動き）に表れていました。スペースはゴールライン付近でもいたる所があり、3つのサークルに限定されていいのだろうかと思いました。ボールを持ったとき、ゴールに体を向けることはシュートチャンス時だけでなく、コート上全ての場面ではないかと自分なりに解釈しています。特に、ハンドボールはボールを保持した時の歩数がバスケットボールに比べ多いです。そのため、ボールを保持した時、前に進むことができるからです。
- 4年生だけ、見させていただきました。児童一人一人がしっかりとこの時間のめあてをもって取り組んでいました。学習の流れもスムーズでとても気持ちのいい時間でした。学習の終盤に、「腹減った」児童がよほど緊張していたのだと感じる生の声にホッとしました。
- 運動量を確保するために、教具の工夫がたくさんされていました。ゲームの切り替えする音やボールがすぐ落ちてくるゴールなど、2C2Tで十分動ける環境が整っていました。ゴール型ゲームは、まずシュートが入って「楽しい」、守れて「楽しい」といったものははっきり分かりますが、ボールを持たない子の動きで楽しさを見つけるのはレベルが高いと思います。その楽しさは自分の動きがどのプレーにつながり、どんな効果をうんだのか、イメージできることだと思います。今日の児童はそれができ、意欲的にプレーすることができていました。自分でも実践してみたいと思います。
- 子どもたちの動きを見ると、昨年度からの技能の積み重ねが見られました。ボールゲームをすると、「ボールに集中し、パスをうまくもらえない」「見ている人がたくさんいる」姿がみられがちです。授業をみて、ボールをもらうための動きの大切さを感じ、そのことが得点につながるということを実感していた。また、めあてを達成しようと「見て、考えて、動く」ことができていたと思います。
- 5年では、つかむ段階で子どもたちから合言葉のように一斉に言葉が出てきて、何がポイントなのかはっきりと頭の中に入っていることが分かりました。また、次々と活動が展開されていって、活動と活動の間の時間がほとんどないことに驚きました。パターン化されていて、子どもたちがどんどん動けることがすばらしかったです。「自分の動き」は自分にはなかなか見えてこないものなので、分析カードで教えてもらえるのはとてもいいことだと感じました。それと同時に、分析することでねらいを達成している動きがどういう動きなのか、あと一步の動きがどういう動きなのかという感覚、見る目、考える力が備わっていくのではないかと感じました。
- ボール運動「ゴール型」の特性に触れ、子どもたちは意欲的に活動していました。学習カードや分析カード、用具などにも工夫が見られました。ゲームの攻防の面からみると、シュートのつながる攻めのバリエーションを増やすことは子どもにも楽しく取り組めることですが、ゲームの質を高めていくには守りのポイント（特に5年）を指導してもよいのではないかと感じました。
- よく考えられた指導案、よく動けるように育てられた子どもたち、事前の準備、指導もよく行き届いていました。
- 「フリーの場所へすばやく動くよう！」というめあてであったが、具体的にどのような動きができればねらいが達成されるのか、子どもたちがとらえきれない部分があったと思います。そのためには、ねらいを達成できていた子どもの動きを紹介したり、映像などを用いてモデルとなる動き方を視覚的にとらえさせるなどの支援が必要であると思いました。また、せっかくフ

リーの場所に動けてもボールをにがしたりする場面が見られたので、シュートやキャッチなどの技能面でも指導もしっかりすることが必要と感じました。

- 人数が多い学級であったが、全員が積極的に参加していた授業でした。教具も工夫されて楽しく取り組めるゲームになっていました。どの子どもも息をはずませ、楽しく活動する姿を見せていただきました。タスクゲームなどの資料もいただき、今後に役立たせていただきます。四角パスゲームは7時間目というところからいくと、投げる距離を広げるなどしてより高度な投げ方がよいかと思います。オールコートが9・10時間のみなのかと理解しましたが、年間計画では6年生にはないようですので、少し足りないのではないかと感じました。
- ねらいが明確な授業でした。ねらいにそった子どもたち一人一人、またグループのめあてをそれぞれもっていました。グループ活動が自立していたと受け止めました。個に関しては反省内容（学習カードに記入していた）がめあてにそっていたことから、よく分かりました。研究の積み重ねを感じる立派な授業が展開されました。
- ねらいにせまる手立てがはっきり分かる両授業でした。「進んで運動に取り組む」ために、単元構想と各時間の流れがしっかり組み立てられました。4年生の授業ではペットボトルがゴール、5年生の授業では特製ゴールと、教具の工夫や場づくりも子どもたちの生き生きした表情、動きになっていたと思います。TTのよさ、人数が増えることでの運動量と場の工夫、メリットとデメリットも考えさせられました。
- これまでの取り組みについての話や2年間を見通した単元配列を下に指導内容が精選された授業を通して、子どもたちにどのようにして「動き」を身につけさせていけばよいか、示していただきました。子どもたちのはつらつとした動きがとても印象的でした。
- 5年生の子どもたちの元気な声が響く授業でした。進んで取り組み、てきぱきと動き、話の聞き方もよく、発表しようとする意欲もあり、感心しました。授業は十分な運動量があり、子どもたちの技能も高まっていると感じました。

スキルアップで基礎的な動きをつくり、できた動きをゲームで試していくという展開で力がついてきていると思いました。ただ、4年生と5年生の授業を見比べることができなかったのは残念でした。4年生から5年生に進んで、どう違ってきたのか見たかったです。

- 5年生の授業について、フラッシュカード、図、めあて、分析カード等、細かな支援があり、頭の下がる思いがしました。また、スキルアップゲームやミニゲームなども工夫されており、充実していました。そして何より、子どもたちが見通しをもって生き生きと活動していたことがすばらしかったです。1点だけ疑問に思ったのは、銀河ゲームのパスがアンダーパスのみだったこと。子どもたちは技能が高まっており、アンダーパスだけではスペースがなくなり、プレーが滞ってしまったのではないのでしょうか。4対4のゲーム（オールコート）をやるのならば、アンダーパスだけでは、ハンドボールの楽しさや特性に触れられないのではないかと思います。
- 付けたい力を明確にしており、子どもたちもできたかどうか分かりやすい授業展開でした。ゴールやコートなども子どもたちの実態に合った工夫されたものになっており、参考になりました。所感ですが、シュート練習は左サイド、右サイドできれば両側から、パスゲームは名前の通りパスがゴールにならないようになるのとさらによくなると思いました。また、頭上パスの禁止はスペースを意識させるためのことと思われれますが、銀河ゲームを見ていると、せっかく仲間が逆サイドの空きのスペースにいるのに、ボールを持っている子どもが投げようとしてやめている場面が何回か見られました。明らかに「頭上はだめ」を意識してのことだと思われました。同じように長めのパスをあきらめる様子も見られました。5年生のハンドボールの最終目標が4対4のオールコートであるということ考えると、6年生の年間計画にはハンドボールがなかったので、コートを広く使えるように活動を移行していった方がよいのではないかと思います。
- 前回の事前研究授業より、数段ゲームらしくなっていました。学年間や年間の体系化はもち

ろん、単元内での身につけさせたい技能の体系化も明らかで、しかも質の高い授業を続けると、このようになるということを改めて感じさせられました。

- 本時のめあてが明確に示されていて、子どもたち自身が積極的にそのめあてに向かって取り組んでいました。ゲームの工夫、場の工夫、言葉の工夫が随所に見られ、その効果が子どもたちの動きの豊かさになって、はっきりと表れていました。
- 5年生は2学級合同の学習でしたが、子どもたちの学習習慣がよく身につけていて、生き生きと活動していました。すべてゲーム形式（対戦）で行われていて、よく動いていましたが、そのために意図した動きになっていないのではと思うところもありました。自分のチームだけで、じっくり練習する時間も必要だと思いました。（学び合い、教え合い）
- 子どもたちの技能レベルが高く、たくさんの良い動きが見られました。また、授業中の運動量も豊富で、子どもたちも生き生きと満足いくまで動いていました。よく練られた学習過程やタスク・スキルゲームがこれらの良い授業につながっていたと感じました。素晴らしい実践でした。
- 5年生の授業を中心に参観させていただきました。どの子どもも目を輝かせ、生き生きと活動する姿が印象的でした。個のめあてを達成しようとしていたところもよかったですと思います。場作りやミニゲーム、手作りの教具など参考にさせていただくことが多々ありました。
- 新学習指導要領スタートに合わせ、ゴール型ゲームを題材にして、実り多い授業提示だったと思います。ゴール型運動すべてに共通する技能の習得につながる内容やゲームの開発に頭の下がる思いです。子どもたちが生き生き、きびきび動いて、楽しい表情が印象的でした。授業された先生方、授業研究を進めていただいた先生方、ありがとうございました。
- 5年生の授業を参観させていただきました。子どもたちのめあてに向かって一生懸命運動していた姿が印象的でした。
小学校部会の授業参観をさせていただきました。4・5年生ともに、子どもたちの生き生き

とした明るく元気に、何といても活動を全員が楽しんでいる姿に感動しました。十分な活動時間の確保により、子どもたちは大きな満足感を得たと思います。先生方のひたむきな授業、すばらしいと思いました。

- 子どもたちの表情がとてもよく、生き生きと運動している姿が印象的でした。5年生の授業を見せていただきましたが、ねらいを達成させるためのめあてと活動を子どもたちがよく分かって動いていたと思います。78人の運動量を確保することもできていたと思います。パスゲームもAPSの活用などにより、よく動いていましたが、よりゲームにつなげていくために、パス&ランを取り入れてもよかったと思いました。
- 子どもたちがとてもよく動いていました。これは、「ボール、コート、ルール」等を含めた教材研究の成果だと思います。ゲーム（ゴール型）の特性の中に、攻守の切り替えもあるかと思いますが、今回はハーフコートのゲームでした。どの段階でオールコートにしていくのか知りたかったです。
- 子どもたちが一生懸命に動いている姿が見られ、うれしく感じました。4年生は周りを意識しての動きが見られ、ハンドボールのみならず、ほかのゴール型にもつながる技能の習得が見られました。5年生はセルフジャッジが上手に機能していました。6年生の授業の現在の様子を知りたかったです。（6年ではバスケットボールになっています）
- 両学年の授業を参観させていただきました。子どもたちが元気に楽しそうに活動している姿が印象的でした。また、子どもたちのスペースへの動きはねらい通りに考えた動きでした。また、パスやシュートなどの技能も高く、すばらしかったです。
- 新学習指導要領に示された指導内容を定着させるために、様々な手立てが考えられた授業でした。スキルアップドリルやダイヤモンドゲーム、銀河ゲームで、運動が苦手であっても必ずボールに触れられて、技能練習ができると感じました。一人一人の技能の差はありますが、一人一人が確実にレベルアップしていく授業であったと思います。

- アイデア満載の授業で、大変参考になりました。評価で大切なことは、「教師が次時の指導に結びつけることができる」「子どもが自己の変容を自覚できる」「教師と子どもの評価観点が一体化している」ということだと勝手に思っています。そういう意味では、振り返りカード、分析カード、相互評価の盛り込み等、すばらしい授業だったと思います。
- 子どもたちがとても意欲的で、めあてに向かって一生懸命取り組んでいる姿が印象的でした。また、子どもたちが学習にスムーズに取り組めるための環境づくり、資料、カードの作成が十分なされており、すばらしいと思いました。子どもたちの熱心な姿から、早くオールコートのゲームをさせたいと思いました。
- 多人数でありながら、一人一人が「めあて」に向かって一生懸命取り組んでいました。それぞれの学年で教具が工夫されており、先生方の大変さが伝わってきました。本当にお疲れ様でした。
- 授業者のコスチュームが同じ、しかもシューズまで揃えての姿勢に、子どもたちも意気を感じて「先生方のために頑張ろう」と意欲が前面に噴出した授業に感服しました。学習の振り返りで、子どもたちの「した」「できた」に加え、「していた」「してくれた」など、他者に感謝する発表もあればよかったと思います。
- 指導の在り方について学ぶことが多く、本校、さらには最上地区（山形県）に帰りましたら、機を見て話していきたいと思います。授業の組み立て、教材の工夫と準備、TTのかかわり方、よかったと思います。児童の運動量、素早い動き・反応、技能の高さ、そして何よりも一生懸命ねらいを把握し、その解決に向けて取り組んでいる児童の姿に感激しました。特に2の視点は十分に達成されていました。

2 研究協議会について

- 単元を通して小学校であれば観点をバランスよく指導していきたい。そうすることで、結果として技能も必ず高まってくるものだと今までの実践から感じている。
- 新学習指導要領の読み取り、とらえ方について、具体的に学ぶことができました。特に、担当している学年だけでなく、学年間の関連した動きをしっかりと押さえること、子どもたちに身につけさせる力を明確にしていることから授業づくりがスタートするという点を改めて実感しました。
- 県内外から発言者があり、活発な協議でありました。授業者の説明の後に、若干の質問を受けて、その後に視点についての意見交換という流れでもよかったです。
- もっと児童の具体的な動きや姿、授業のよい点を挙げてほしいでした。目標・内容授業・評価の一体化については、子どもたちがめあてをしっかりと意識し、それについて反省し、活動していました。本当に子どもたちが楽しそうに、生き生きと活動していました。
- 新学習指導要領をもとにした授業について、同じゴール型でも3・4年と5・6年ではねらいとする動きが違うなど、こまかい部分まで勉強することができました。また、45分間の授業時間の中でも、教師のねらい・子どもたちのめあての評価がつながっていなければならないことや、感心・意欲・態度、技能、思考・判断の3つの評価をバランスよく行わなければならないことなど、改めて再確認することができました。
- 授業者と参加者が互いに実践や考えを出し合い、内容の濃い協議会でした。2つの授業について考えることで、発達の段階に応じた指導内容が分かりました。
- 新学習指導要領の読み取り方など、参考になりました。授業者の入念な準備による理解がすばらしいと感じました。
- 新学習指導要領の解説をよく読み、疑問に感じていること、どうとらえればよいのかの悩みなど話し合えた積極的な協議会でした。体育科教科をリードする先生方、教育課程を管理する立場の先生方が多かったことから、指導・助言の先生からの「指導要領の内容の取り扱いを再確認し、年間指導計画を再点検すること」は明確な指標となりました。
- 「新学習指導要領」を強く意識することができた協議会でした。それは何よりも授業がそれを取り入れた試みであったこと。単元の構造図を私は詳しく読み取ることはできませんでした。

が、改めて授業者の明確な授業づくり、指導内容に感銘を受けました。

- たくさんの質問や意見がでていたので、質問できませんでした。ボールを持たない時の動きに重点を置いた学習だったので、攻守交代が素早く行われる場面がなかったが、今後どの段階で指導していくのかを教えてもらいたかったです。「移動する」、「(相手がいない所に)立つ」という言葉の解釈について、授業者の話聞いてスッキリと理解できました。
- 「動きの質」について、守備者を入れない、連続につなげる(ダイヤモンドパスを1回通ったら1点というのを、2回パスが通ったら1点)というように、ゲームのレベルを上げてよいと思いました。これからやっていかなければいけないことや課題などがよく分かりました。いろいろな意見が交わされ、とても参考になりました。
- 新学習指導要領の解説をよく研究しなければ、話し合いに参加できないと思いました。今日は本当にいい刺激をいただきました。
- 新学習指導要領解説書の理解については、自分が認識不足で再確認させられました。
- 新学習指導要領解説書をしっかり読むこと、読み取ることが大事であると感じました。
- 新学習指導要領のとらえ方やその目標、内容を達成し、評価と一体化させるための話題が参考になりました。運動の種目、内容は解説書にあります。その方法は教師自身が研修を積み重ねて工夫し、実践いくことが大切だと改めて感じさせられました。
- 具体的な話が参考になりました。
- 参観者に書かせた「付箋」が全く話題にならず、意味がなかったのが非常に残念でした。書かせた以上は協議会で話題にすべきですし、その時間がとれないなら書かせる必要はなかったと思います。協議会の流れを予想し、計画を立ててほしかったです。また、フロアに意見・考えを求めるのであれば、事前に研究計画や指導案、協議会の視点などを配布していただければ、ありがたかったです。
- 次年度に向けての諸準備を整えていかなければいけないことを再確認しました。授業に対する話を指導主事からもっと聞きたいと思いま

した。私たちが感じたことがどうだったのか確かめたかったと思います。

- 授業参観の視点が2点出されていたので、協議も大変盛り上がったと思います。特に視点1についてはまだまだ分からない点がたくさんありますが、なるほどと思える部分もありました。ただ、せっかく成果と課題の付箋を書いていただいたのに、それをうまく活用できなかったのが残念です。
- 新学習指導要領をどう読み取り、指導に生かしていくのか、まだまだ研究を深めていかなければならないと思いました。また、単元構造図がとても参考になりました。今後の研修の方向性がみえる協議会でした。
- 大変有効な研究であったと思います。来年度からの新学習指導要領のスタートにふさわしい内容でした。指導・助言も大変勉強になりました。本校の職員にも参加させたかったです。
- 新学習指導要領実施に当たって、解説書の確実な読み取り方や「一体化」の大切さについて学ぶことができました。授業者の思いも分かり、よかったです。今後の実践に生かしていきたいと思えます。
- 付箋を使つての分科会になると思いましたが、活用されませんでした。後で、大仙の先生方で分析、まとめたものを見せていただけたらと思います。単元構造図は横手市でも今後研修していく予定の内容です。まだイメージが分からなかったところだったので、話題になりよかったです。
- 4・5年生を半々しか見れず、残念でした。ボールを受ける側に視点を与えての授業展開は大変参考になりました。4年生の子どもたちが5・6年生になればハンドボールを行いたいという気がします。その時に年間計画が変わっていくことを楽しみにしています。この実践が他校に広がることを大いに期待しています。
- 様々な実践が発表され、大変参考になりました。評価についてはとても難しい部分だと感じました。試作ということでしたが、単元計画の構造図はとてもよくできているし、分かりやすいものだと思います。この後、改善されていくものであるとのことですが、完成度は高いのではないかと思います。

- 授業された大曲小学校の先生方のこれまでの取り組みが分かる会でした。また、新学習指導要領完全実施に向けて、素晴らしい手本をいただいたことに感謝します。
- 子どもたちが運動を「楽しむ」ためには技能が必要だと思います。今回のゲームやボール運動自体は楽しい活動だと思いますが、その活動を支える投力、捕球力等が備わっているのこそだと思います。苦手な子どもたちの話題も協議会ででしたが、体育の授業内でそれを補うのはあまりにも時数が足りないし、負担が大きいのと思われます。日常の遊びや校内での何らかの取り組みの継続で、大曲小学校のような子どもたちの力がつくと思われるので、なお一層、外遊びの推進（ボールを使うことも含めて）や、系統立った基本的な技能向上の取り組みを再考したいと思いました。
- 活発な意見が多く飛び交い、有意義な時間を過ごすことができました。自分も聞きたいというのがありました。あっという間に時間が過ぎ去り、残念でした。
- 参加者の意気込みが感じられました。発言者が多く、協議の時間が足りなかったと思うほど、活発でありました。体育に対する強い思いが一人一人の発言の中に込められていたように思いました。
- 指導主事からの指導・助言が大変に参考になりました。また、他県、他都市から参加された先生方の熱意も大変心地よいものでありました。

< 中学校 >

1 研究授業について

- チームとして、よく考えて動いていた。
 - たくさんの準備、温かい授業の雰囲気、先生の人柄のにじみ出ていた、素晴らしい授業でした。授業中に、子どもたちがきちんと質問に答えてくれたり、「あ、すみません」と、とっさに言えたり、育っているなあと感心させられました。
 - チームで体操、スキルアップメニューと、はじめからきびきび活動し、好感がもてました。
- 本時のねらいに関しては、体育館内のあらゆる場所に場の工夫、ドリルの掲示、ラインテープがあり、分かりやすく、しかも取り組みやすい印象をもちました。また、何よりも一生懸命に動き、汗をかいている生徒の姿が清々しかったです。
- 「ねらい」が分かりやすく、明確であると感じました。教師側の合図がほとんどなく、生徒が主体的に動いている姿が数多く見られました。また、目的意識を一人一人がしっかりともち、ボールに関わろうとしていました。とても素晴らしい授業を見せていただき、本校でも学ばせていただいたことを生かしていければと思います。
 - 整然とした授業ですばらしかったです。どの生徒も上手になりたいと意欲をもって授業に臨んでいるのが感じられました。毎時間、小さな成長を感じ、達成感をもちつつ学んでいるのだろうと思えました。きめ細かな準備と指導、とても参考になりました。
 - 生徒の技術レベルが高く（特に女子）、より高いねらいを求めた素晴らしい授業でした。学習の場、用具、スペース、環境も整っており、生徒も伸び伸びと汗をかいていました。教師と生徒にしっかりと信頼関係があり、授業の進行がスムーズでありました。授業者の先生、本当にお疲れ様でした。
 - 今回の大曲中学校の授業を拝見するのは2回目ですが、今回も生徒が生き生きと運動する姿に感心しました。動きだけでなく、作戦版を有効活用し、思考力も磨き合っていました。生徒の成長は先生方の研究熱心な取り組みとその積み重ねのたまものだと思います。大変勉強になりました。
 - 落ち着いた雰囲気の中で、実践されていました。ねらいを達成するための手立てがよく練られていたと思います。
 - 本時のねらいである「ゴール前のあいている場所をカバーできる」を達成させるために、説明→ホワイトボードでの説明→動いて確認という形で、生徒に分かりやすい指導法が大変参考になりました。新学習指導要領についての理解が不足しているため、大曲中学校の授業に早く追いつけるよう、研修を進めていきたいと思

- ます。
- レベルの高い授業だと感じました。3年間を通しての授業構成であり、生徒の動きもすばらしいでした。ボールコントロール、声や手をあげてパスをもらうなど基本的な動作を習得していないと、今日のような授業は成り立たないと思います。意欲的な子どもたちの表情もよかったです。
 - よく準備のなされた授業だったと思います。生徒がスムーズに動き、話し合いに集中し、ゲームを行っていたのが印象的でした。無駄な時間がなかったのが、運動量の確保につながったと思います。これまで大変苦勞されて今日の日を迎えたのではと推測しました。
 - 生徒一人一人が本時のめあてを意識し達成しようと、一生懸命取り組む姿がみられたすばらしい授業でした。「わかる・できる・伸びる」ことができるための手立て、支援が随所に見られました。特に、グループ内での教え合い、話し合いが活動を十分に支えていたものになっていたと思います。
 - 新学習指導要領で重視されているボールのない空間での動きに焦点をあて、生徒にその部分を強く意識させたすばらしい授業を見せていただきました。広い空間での3対3のゲームは運動量も多く、選択した生徒も十分に満足できたと思います。
 - ねらい達成のための学習がきちんと行われていて、生徒も十分に理解しながら運動していました。また、生徒同士の話し合いや声かけにおいても、ねらいに迫る言葉が多く出ていました。
 - 落ち着いた雰囲気の中で、生徒と教師の一体感が見えました。単元計画に沿った本時ということで、目標や評価は今までは注目されたことのない「守備」、「カバー」、内容の構成にご難儀があったことと思います。
 - 大変よかったです。参考になりました。目標、内容、授業、評価のリンクのさせ方と具現化についてのアイデアをいただきました。
 - 研究されていて、きめ細やかで工夫のある授業でした。構造図の細かさ、指導と評価がしっかりとリンクしていることに大変驚き、勉強になりました。55分の授業時間になっていました。

- 暖房があるとはいえ、寒い体育館の中、生徒たちが汗をかくくらい一生懸命動いていました。先生の話聞く態度も真剣で、日常の指導がしっかりなされていると感じました。技能的にもレベルが高く、動きの悪い、いわゆる運動の苦手とする生徒がいないなと感じました。授業のための準備が数多くあり、その労苦に敬意を表します。
- 自校に持ち帰って実践したい工夫がたくさんありました。授業のマネジメントがすばらしかったです。
- ねらいが明確な授業であり、また、ねらいを達成するための場面が設定されたすばらしい授業でした。また、ねらいに迫るための資料も豊富でよいものでした。
- 国立政策研究所の指定、本当にご苦勞さまでした。新学習指導要領及びその解説を具現化するためのアプローチによる提示で、本県初となる内容にとっても感激しております。本校職員2名も参加させていただき、とても勉強になったことと思います。指導主事の解説、指導・助言が一層今回の内容を分かりやすくしてくださいました。
- 大曲中学校の皆さん、お疲れ様でした。

2 研究協議会について

- 3対3のオールコートによさ、攻守の切り替えと、本時のねらいと関連付けて考えてみました。「カバー」の状況をうみだすためのパスカット→逆速攻の状況をうみだすことで、攻守交代とカバーの必要性がうまれ、ねらいの達成がめざされるのではと感じました。
- 『「わかる・できる・伸びる」楽しさを味わう体育学習』と、大仙地区全体でのチームワークのよい取り組みが、今日の授業に出ていたように感じました。授業者の藤倉先生の話から、指導の軸がぶれていないことと、きめ細かい配慮や生徒を伸ばすための工夫が単元構造図にちりばめられていて、内容の濃い研究協議でした。
- 協議会では、新学習指導要領に即した授業の構造図の作成や運動量のことなどについて有意義な話し合いがなされました。生徒の実態に即した指導計画の作成が重要だと再確認させられました。

- 視点がはっきりしていたため、方向性がぶれずに話し合いが進んだのではないかと思います。藤倉先生の意図がよく伝わりました。
- 提示された授業がすばらしかったので、意見や質問の絶えることのないよい協議会でした。また、質問に対しても論理的に答えていただき、ありがたかったです。
- レベルの高い授業には、レベルの高い協議がなされるものであると実感しました。たくさん収穫のあった話し合いでした。付箋紙法も活用されていて、参考になりました。単元計画の構造図は是非取り組んでいきたいものです。
- 爽りのある協議会でした。
- ややもすると、攻撃に目がいきやすいバスケットボールの指導になりがちであるために、デフェンス側の視点でねらいを設定した本時の授業は新鮮でした。1・2年生において、デフェンスについてどの程度おさえるについては、資料を参考に取り入れることを考えたいと思いました。構造図作成のねらいとポイントについて、分かりやすく話をいただきました。「熟成させてからの評価」「移行期の学習の在り方」「学習モデルをあてはめる」、これらも参考になりました。
- 授業者はバスケットボールの専門だったでしょうか。バスケットボールの不得意な私としては、専門の先生とそうでない方、どちらの意見にもうなずける所があり、大変勉強になりました。
- 事前に付箋紙で感想を提出していたことが、話し合いの深まりにつながったのではないのでしょうか。指導の構造図はとてもよいお土産になりました。何も質問も意見も出さなくても、じっくりと全体の協議を聞かせていただきました。
- 単元計画の構造図があることにより、全体の流れが明確になり、指導と評価の一体化をより図れることを感じました。生徒の実態を把握し、それに合った活動を行うことの大切さを再認識することができ、貴重な時間となりました。
- 単元構造図について詳しく説明していただき、大変勉強になりました。新学習指導要領の理解につながることで、また指導案の組み立てに直結することなど、今後大いに参考にできる内容でした。評価に関しては今後さらに研究されていくとのことでしたので、注目していきたいと思っています。
- 単元構造図をはじめ、これからの学習に重要なポイントが多く得られた大会でした。もう少し時間があればとも思いましたが、会の内容について自分なりに検討し、これからの授業に活用していきたいと思っています。
- 「単元構造図」の提示、ありがとうございます。「単元構造図」があれば、「5単元と指導計画と評価規準」は今後いらなくなるのかなと思いました。
- 単元構造図が以前よりずっと分かりやすくなっていて、大変驚きました。早速、研究として取り入れていきたいと思っています。
- 新学習指導要領についてももっと勉強しなければならないと感じた協議会でした。中でも、単元の構造図については今の自分の授業に振り返ったとき、大変参考になるものでした。今日の授業、研究会に参加して本当によかったと思います。
- 挙手制ではなく、小グループの付箋方式の方がもっと活発な意見交換がなされたのかなと思いました。
- 新学習指導要領の具現化のための考え方や単元構造図など大変勉強になりました。新学習指導要領の例示に示された内容をいかに自分の学校の生徒におろしていくかなど、多くの宿題をもらったように思います。
- 司会者のすばらしい（付箋コメントを活用しての）司会進行のおかげで大変充実した研究協議となり、多くのことを学ばせていただきました。

< 高等学校 >

1 研究授業について

- 笑顔あり、拍手ありで真剣な高校体育をみる事ができました。
- 大変参考になりました。生徒を動かす授業で、要所で分かりやすいアドバイスがありました。生徒もそれを受けてできるようになっていると感じる授業でした。特に、後半の4対4のゲー

ムでは前に学んだ3対2の体制が生まれてくるような動きの説明が「できる」質を向上させていると思いました。

- 教師からの指示や助言が的確で、生徒たちもとてもスムーズに活動できていました。教師からの説明の場面と生徒たちの運動の場面とのメリハリがあり、リズムのよい授業でした。安全面の配慮にはじまり、教具の工夫等、生徒の活動がスムーズで活発に取り組むことができるような教師側の働きかけがよくみられました。
- 授業は簡単なボール操作や転がしたり捕ったりと、体を使い生徒が楽しく行っていました。運動技能でもどういうところにパスを出すのか、また、ボールを持っている人と自分の間に守備者がいないようにどう動くのか明確にされ、生徒の動きもスムーズに行われていた。生徒が授業者の指示に従い、考えて授業していました。
- 女子クラスということもあり、指導の仕方が大変と思われましたが、授業を積んできたという成果が見え、生徒たちが段階を踏んできた授業展開だと強く感じました。授業でも各展開におけるきめ細かな説明と実践によって、「わかる」から「できる」へと移っていく過程が実感でき、大変参考になりました。
- 盛りだくさんの内容でありました。それに対応できる生徒、指導者は大変素晴らしいものだと感じました。随所に考えた跡が見えました。
- 全員が女子のクラスでありましたが、生徒は意欲的に取り組んでいました。ボールの扱いには慣れているようで、本時の空間を利用する動きをしっかり理解し、実践できていました。授業者のかけ声もあり、できる喜びを味わうことができる内容でした。
- 初めてハンドボールの授業を参観させていただき、大変勉強になりました。ハンドボール経験者が3名と少ないクラスでありましたが、ハンドボールの基礎から積み重ねてきた成果が授業を通じて伝わってきました。また、生徒も意欲的に取り組む姿勢がすばしかったです。ただ、研究主題に当てはめて授業を分析した場合に、チームで話し合う活動の場がもう少しあればもっとよい授業になったと思いました。
- ハンドボールの授業を初めて参観させていただきました。「ゴール型」の楽しさはシュート

をして得点することが最大の楽しさですが、そのためにパスをつなぐ、デフェンスのマークをはずすことが必要だと思います。今日の授業ではシュートにいくまでの動きが楽しく分かりやすくできていたと思います。

- 集合や活動のメリハリがあると同時に、運動時間が豊富な授業でした。技術面においても、クラス全体のレベルが高く、授業の雰囲気も明るく活発な感じが非常によかったです。
- 生徒に対する説明が分かりやすく、授業も段階的に組み立てられており、大変勉強になりました。今後、授業をしていく際に活用していきたいと思います。
- 研究大会の授業だけあって、体育の授業としてはすばらしいの一言に尽きました。これまでのご労苦や準備・実践に対して敬意を表したいと思います。学校行事（修学旅行）と重なる不運もありながら、体育科の皆さん、改めてご苦労さんでした。
- 生徒たちが「楽しく運動」ができていた授業でした。授業者が専門家であり、生徒たちのつまずきに対してタイムリーかつ的確にアドバイスされていることが印象的でした。
- シュートを決めるために必要な動きで、スペースを作る動きやパスができていました。「パス&ラン」、「L、V字カット」、「バウンドパス」等、生徒たちが自然にプレーしていることがすばしかったです。そして何よりも、授業者と生徒の信頼関係をベースとした授業の雰囲気がよかったです。
- 生徒が楽しく生き生きと授業を行っていたのが印象的でした。展開の内容が盛りだくさんで、もう少し絞って1つの課題の運動量や達成感を求めてもよかったです。
- 生徒が生き生きと楽しそうな表情で授業を行っていたことが印象的でした。普段からの授業の取り組みが伺えました。準備等大変だったと思います。
- 生徒の関心がとても高く、実技授業の中で話し合いができる状況がすばらしいと感じました。用具等の面で、本校でのハンドボール実施は難しいかと思われそうですが、生徒の動きや授業者のアドバイスなどを参考にさせていただきたいと思います。

- 1年生の体育の授業でしたが、運動能力が高いことに驚きました。ハンドボールという県南地区固有の種目として見るができる授業であったので、県北地区では見ることでできない身体の使い方、ボールを投げるスピードを新鮮な眼で見ることができました。今後も県南地区特有のスポーツとして、県央、県北にない体育授業に発展していただきたいと思います。
- 感想としては、「私も授業に参加したい」というのが一番です。参加したいと思うのは生徒も同様です。「よい授業は指導スキルの向上」と考えがちですが、今回の授業では生徒のモチベーションの高さが授業を支えていると思い、授業者の支援が適切なされた授業展開だったと思いました。
- 私も1年生の女子の体育を担当しているので、大変勉強になりました。1単位時間の内容を見ると、とても運動量が多くて驚きました。ボールを使った体づくり運動やホワイトボードを使った説明の仕方など参考にしたいと思います。
- ハンドボールの授業を参観するのは初めてのことでした。授業者はハンドボール経験者が少ない中で、場の設定と生徒に考える時間を与えて取り組ませ、興味や関心を引き出すための工夫を大切にしていたことがとても印象に残りました。

2 研究協議会について

- 「運動量の確保」ということは普段から意識していることですが、常にわかる、できるの授業であれば、自ずと楽しい授業から運動量確保、体力向上につながる、色々考えさせる貴重な時間となりました。
- 本日の授業について、授業者からの説明、それに対しての質問が活発に行われていたように思います。が、参観者からの意見や感想をもっと引き出すような工夫があればよかったのではないのでしょうか。いずれにせよ、集団内の能力差、男女差をよく考慮した取り組みのためには、条件の設定や観察の仕方に工夫がいることを再認識させていただきました。
- 公開授業をテーマに、現場に持ち帰ることができる多くの意見が聞けました。運動能力の低下により、「できる」段階での重要性を強く感じ、

「伸びる」にもっていくまでの課題、または授業展開を工夫していかなければならないことも感じさせられました。

- 授業者の日ごろの指導が徹底されていると感じました。生徒は生き生きと体育に臨んでおり、「積極性」から「自主性」という観点からみると、大きな成果をあげているように感じました。教材の工夫、場の工夫、展開の工夫と、我々教師のやり方一つで大きく内容が変わり、それにより生徒の状態も左右されます。一層勉強に励み、生徒の指導に尽力したいと感じました。
- 保健体育課の指導主事の指導・助言をいただきながら協議会が進められ、他校の先生方の貴重な意見を多く聞くことができました。また、自ら感想を発表する場面もあり、事前に説明があった授業の視点2つについて感想を述べさせていただきました。生徒も授業の中でおおかたねらいが達成できていたという意見が多かったです。最後に、土井指導主事から助言いただきました、よりよい体育授業を実現させる4つのポイントを意識し、これからの授業に臨みたいと思います。
- 研究授業において、疑問に思った点を聞くことができよかったです。もっとたくさんの先生方から感想や質問をいただくことができたなら、さらに中身が充実したと思います。時間が短かったように感じました。
- 高等学校における授業の組み立て方や考え方など、大変参考になりました。教具の工夫や指導の仕方など、今後の授業に活かしていきたいと思います。
- もう少し、多くの参加者の皆さんの感想や質問などを聞きたかったと思いました。
- 『『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習』を実践していくうえで、明確な目標の設定が肝要であると感じました。そのための指導と評価の一体化も図っていかなければならないと思いました。
- 「明日の授業から実践していこう」という強い刺激や意欲をいただきました。大曲農業高等学校の先生方はじめ、関係の先生方の今日までの取り組みに深く感謝申し上げます。
- ハンドボールという指導者もあまり触れたことのない題材だったため、何を問うているのか、

何を答えているのかが分かりにくい協議会でありました。

- 活発な意見が出され、充実した内容だったと思われま。今回のことを今後の授業実践に活かしていきたいと思ひます。
- 「指導しすぎない」ということが生徒が考える授業につながると改めて感じました。生徒の理解度の評価について、再度考えていきたいと思ひます。
- 研究発表者の苦勞が生徒たちの動きのよさ、てきぱきとした体育授業の躰がよく伝わり、今後の授業のためのよい模範になると思ひました。過去の自分の研究発表を思ひ出して、その中で苦勞したこと、生徒ととの授業でのやりとりから学んだ生徒に教えられた授業の工夫などを思ひ出して見させていただきました。
- 司会進行がスムーズで適切な情報交換がなされたと思ひます。具体的なスキルや使用用具についての話を聞けてよかったです。論点が明確化されていたので、まとまりのよい協議会でした。
- 様々な視点からの意見を聞くことができ、参考になりました。用具の問題等もありますが、すぐに生かせるものがたくさんあったので、安全面に気をつけ実践したいと思ひます。
- 授業を振り返り、反省点や今後の課題について話し合いがもたれ、これでよいという授業ではなく、工夫・改善が常に必要であることの大切さを痛感しました。「わかる・できる・伸びる」について考えさせるよい協議会でした。

<小・中・高等学校>

1 全体会について

- 小・中・高の3分科会とも、指導内容の明確化が共通の話題になっていたようでした。指導内容の体系化を改めて見つめ直していきたいと思ひます。
- 花火の映像がゆがんでいました。会場の後ろの方にも同じスクリーンがあればと思ひました。来賓の方々に失礼しました。
- 各部会からの報告が簡潔でわかりやすかった。

- あいさつ、祝辞、研究説明とシンプルでよい会でありました。
- もう少し、わかりやすく研究計画を説明してほしいと思ひました。
- 研究主題設定理由や仮設、重点について、丁寧な説明があつてよかったです。
- 最初に映し出された花火の映像が、この大会の成功と大曲仙北地域で開催された大会ということ象徴していました。
- 大曲仙北研究会の取り組みがよくわかりました。研究の進め方等参考に、自分の地区でもしっかり取り組んでいきたいと思ひます。
- 新学習指導要領の全面実施を見据えた大曲仙北の研究に大変勉強になりました。指導内容の体系化、単元構造図の提案、タスク・スキルゲームの整理・工夫、コミュニケーション能力の育成とすべてが大切で参考になりました。
- 大曲の花火から入ったところは雰囲気的に柔らかく、よかったですと思ひます。地域の特徴もPRできたと思ひます。研究についての説明も大変わかりやすいものでした。大曲仙北がねらっているものが明確に受け止めることができました。大変参考になりました。
- 研究実践についての誠実な発表に、取り組みの姿勢を伺うことができ、参加意欲が高まりました。
- 大曲の花火のDVDを流すなど、素晴らしい演出がなされていました。また、パソコンを使ったスライドの発表もわかりやすく聞きやすい内容でした。「わかる」「できる」から「よりわかる」「もっとできる」という「伸びる」になることの説明もよくわかりました。
- 12年間を見通した年間計画の作成、ゴール型の観点別系統表の作成等、研究の重点がとても明確であると感じました。平成23・24年度の大館・北秋田大会でも、本研究を参考にしていきたいと思ひます。素晴らしい研究公開、ありがとうございました。
- 閉会行事で、中学校・高等学校の協議内容を知ることができて、ありがたかったです。
- 大曲の花火のDVD放映はよかったです。また、放映終了と同時に全体開始時刻となり、素晴らしいタイムキーパーが存在していると思ひました。

- 大曲の花火の映像がすばらしく、地域らしさが出ていてよかったと思いました。生徒の活動の様子が動画や写真で映し出され、大変分かりやすいと感じました。
- 『『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習』を展開していく上での説明が分かりやすく、新学習指導要領実践のための手立てや考え方について学ぶことができました。楽しさを味わうことだけでなく、教えて考えさせる指導の重要性が大切であることを再確認しました。
- 簡潔でわかりやすく、良かったです。大変お疲れ様でした。
- 研究概要説明では丁寧で、分かりやすい説明でした。また、指導案、年間計画、資料がしっかりしており、大変参考になりました。また、地区全体での研究体制が整っており、すばらしいと感じました。
- 大変分かりやすい研究主題の説明でした。映像を適宜用いたことで、より理解が深まりました。
- 研究の積み重ねがよく見える説明でした。
- 中学校の授業以外に小学校・高等学校の報告も聞くことができ、良かったです。小・中・高の連携を考えるとよい場だったと思います。
- 研究計画の説明では各校の実践例を下に研究の重点を詳しく紹介していただき、大変ありがたかったです。
- 研究の進め方についての説明は大変丁寧で参考になりました。
- 研究計画の説明等、大変丁寧で分かりやすく参考になりました。各部会からの報告もあり、良かったです。
- 会場の広さもありますが、全体からはスクリーンが見えにくいと思いました。映像も一部逆光もあり、白っぽい画面になっていました。
- オープニングの花火が良かったです。
- 研究主題から本時の授業までを整然と説明していただきました。一つの授業をつくるまでの大曲仙北関係者の苦勞を感じました。
- 小・中・高の体系化をうまく図ることが大切であると思います。高校では小・中ではぐくまれたことを責任をもって伸ばしていくことが必要であることを改めて感じました。
- 『『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう

体育学習』という研究主題について、非常に分かりやすい説明でした。「教えて考えさせる」「できる」の質を高めることをめざすという部分に共感を覚えました。小・中・高の系統立てた指導を実践するためには、しっかりと他校種の取り組みを理解しておく必要があるということだろう。

- 『『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習』を行うために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、思考力・判断力・表現力の能力をはぐくむことが重要であり、またそのバランスを重視しなければならないと思いました。また、生涯スポーツにつなげるための系統的学習と指導内容を明確にし、確実に定着させることが求められるだろう。「できる」の質を高めることをめざし、合理的な実践を求めていくことが「伸びる」につながっていくのだろうと考えました。
- 小・中・高と異校種間を12年間という一つのつながりをもとに、「わかる・できる・伸びる」というテーマがよく理解できました。地域でもいくつかの高校があると思いますが、小・中と連携していくことにより、「わかる」の充実、「できる」の喜び・楽しみ、そして「伸びる」につながっていくのではないかと感じました。
- 各校種での実践を見ることができ、参考になりました。発表者の内容も理解しやすかったです。
- 『『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習』に向けて、小・中・高の具体的な取り組みが示され、とても参考になりました。特に、小学校・中学校の親身な指導や細部への手立てに感銘を覚えました。積極性から自主性へと発展する生徒の授業に対する取り組みも、高等学校では強く意識しながら授業に取り組む必要があると感じました。
- 研究概要の説明を受けてから各分科会に入れたので、研究主題などへのイメージもでき、分科会での有意義な話し合いにつながったと思います。また、閉会行事も小・中・高の協議の報告を聞くことができ、各分科会での様子も少し理解できました。新学習指導要領実施に向け、小・中・高の連携より深めて授業に臨まなければいけないと改めて感じました。

- 高等学校だけでなく、小・中学校を通しての授業計画を組み立てていきたいと感じました。
- 新学習指導要領の勉強をしていかなければならないと改めて実感しました。閉会行事において、小・中学校の分科会の報告が興味深く、もっと異校種間での情報交換の場があればありがたいと思いました。
- 研究の重点が明確に伝わってきました。今日までのプロジェクトチームの団結がひしひしと伝わってきました。
- 開会前の花火がよかったです。
- 異校種の取り組みについて知ることができ、参考になりました。
- 小・中・高を通した12年間の年間指導計画の話がありましたが、本校でも中・高を通した連携をさらに向上させなければいけないと感じました。
- 『『わかる・できる・伸びる』楽しさを味わう体育学習』が、我々教師側にたった「わからせる・できるようにさせる・伸ばさせる」の苦しい体育授業が中心であってはならないと強く感じました。昔の体育の中で、生徒の躰が中心であったり、できなければ体育館の隅に座って体育離れしていったりする事の多い時代には考えられない、児童・生徒一人一人の身体能力、健康まで考えて実践していく大変さを学んだ気がします。
- 丁寧な全体説明でわかりやすかったです。パワーポイントの使用が効果的でした。
- 新学習指導要領では中学校3年と高校入学年次における指導のあり方について、中高連携の重要性を学ぶことができました。テクニカルサポート事業等を活用しながら、連携を図っていく必要性もあると感じました。

☆その他、大会運営等全般について

- 小・中・高の共通理解の下に、研究が進められていた点、運営担当者が様々な部門で役割を果たしており、素晴らしい体制であった。
- 小学校会場2つの授業の連絡通路はとても嬉しかったです。小・中の会場、そして中間の全体会場、広い駐車場とても動きやすい研究会だったと思います。大曲仙北体育研究会のまと

- まりの強さを今更ながらに感じました。
- 4年生も5年生も一生懸命動いていました。活気があり、指導も明確でした。
- 大変難儀されたと思います。大曲仙北の体育のまとまりのすごさを感じました。
- 実行委員会の役割分担がよくなされ、連絡体制もよくスムーズな大会運営でありました。
- 大会役員や実行委員、運営に携わった会員がそれぞれの立場で大会を支えてくれました。必要な係を考え、役割分担を決め、会員を配置してくださった方々の働きも大でした。
- 資料がありがたかったです。
- 一人一役、チーム仙北の団結力をさらに強く感じる事ができました。これからも、チーム仙北で助け合い、「わかる、できる、伸びる」楽しさを味わう体育学習を実践していきたいと思います。毛利会長のお言葉が心にじわっと響きました。
- 駐車場や会場までの案内、丁寧な受付等ありがたかったです。すばらしい研修会、お疲れ様でした。
- 授業者の皆様、たいへんお疲れ様でした。
- この日のために、多大なご苦勞をされたと思います。本当にお疲れ様でした。
- 今日までの準備、本当にご苦勞さまでした。「早く、体育の授業で実践してみたい」と思わせるすばらしい授業でした。授業者の方々、事務局、各班の皆様、ありがとうございました。
- 実行委員の皆さんのきめ細かい心遣いありがたかったです。ありがとうございました。
- 大会運営、授業等、準備から当日の運営まで大変すばらしく、感激しました。本当にありがとうございました。授業者の先生方、すばらしい実践を提示くださり、ありがとうございました。
- 役員の方々の心遣いがとてもありがたかったです。授業された先生方、運営に携わった方々、お疲れ様でした。
- 準備、計画、運営、本当にお疲れ様でした。様々な面で手厚い研究大会でした。
- 大変すばらしい大会であったと思います。全体会、協議会の会場もよかったです。
- 大きな刺激を受けた大会でした。ありがとうございます。これからの更なる発展をお祈りし

- ます。両学級とも子どもたちの一生懸命な姿を見ることができ本当にうれしく感じました。
- すばらしい授業提供、本当にありがとうございました。
 - 会場案内、駐車場係等、細かいご配慮とてもありがたく思いました。
 - 大曲仙北の体育研究会員の熱意が天まで届き、まさに体研日和でした。これまでの研究、そして大会までの計画や運営、本当にご苦労さまでした。私は些細なことですが全体会での拍手、いっばいに頑張りました。
 - 大変収穫の多い大会でした。他県の授業や子どもたちの姿、指導方法、そして学校の学習環境等、見たり交流したりすることが大切と痛感したところです。
 - 関係の皆様、準備、検討、大変だったと思います。たくさん学ばせていただき、ありがとうございました。
 - 授業前に授業の視点が示され、ポイントをしばって授業を見ることができました。生徒の生き生きとした姿を見ることができ、普段の指導が行き届いていると感じました。
 - これまでの準備、本当にお疲れ様でした。たくさん勉強させていただきました。
 - 細かな所まで気を遣われていて、大曲地区全体で盛り上げようという気持ちが伝わってきました。
 - 駐車場係の先生、会場案内の先生が大変丁寧に接してくださいました。各部署で大会を支えた先生方も大変お疲れ様でした。
 - 充実した資料を提供していただきました。もう少し、ハード面で経費を削ることができれば、資料代ももっと安くできるのではないかと思います。
 - どうもお世話になりました。駐車場の案内等、親切に対応いただきました。
 - 資料集、そのほか大変参考になりました。今後の授業に使わせていただきます。
 - 授業はもちろんですが、本大会を通して大曲仙北の先生方の体育学習に対する熱意に圧倒させられました。
 - 大曲仙北の体育部会の先生方、たくさんのお気遣いが随所に感じられる大会でした。
 - 時間をかけて着実に準備されたことと思いま

- す。大成功の研究大会でした。
- 車の出し入れがしやすく、ありがたかったです。
 - たくさんの先生方が関わっていることに、大変感謝しています。遠いところから足を運んで、本当に勉強になりました。
 - 会場が大曲中学校でしたが、途中途中にもう少し案内板があればと思いました。(ナビが学校付近までしか案内せず、まちがって学校裏の方へ入ってしまいました。)全体会の会場では案内係も多く立っていて助かりました
 - 今回の貴重なデータを各都市の代表の人に分けてもらえればありがたいです。それをもとに自分の学校に合わせて変えることができると思います。特に、単元構造図は素晴らしいので、是非お願いしたいです。
 - 大会事務局の皆さん、本当にお疲れ様でした。
 - 研究大会では、小・中・高と共通のテーマで実施されるため、種目でも地域性がよくるので、「球技」の中でも自分たちが実施しない種目を研修できるよい機会を与えてくれました。
 - 大曲農業高等学校保健体育科の皆さん、準備に携わった関係者の皆さん、本当にお疲れ様でした。今後の指導に活かしていきたいと思えます。
 - 分科会の時間がもう少しあれば、より深い話し合いができたと思います。
 - 今回は高等学校部会への参加でしたが、小・中学校の授業も参加してみたいと思いました。
 - 大曲農業高等学校はもちろん、地元の関係役員の先生方、大変お疲れ様でした。
 - 大曲農業高等学校ブランドの米が個人的にとっても感動しました。また、大曲マップが昼食時に大変役立ちました。駐車場係のおかげで、非常に助かりました。
 - あえて、異校種の授業を参観するのもよいのではないかと思います。
 - 大変、ご苦労様でした。仕事の作成、授業の指導案の作成がデジタル化して進歩していることに反して、今まで以上に体育の実践は一人一人にアナログ化させていくことと大変さが理解できました。手間のかかる生徒一人一人への思いやりが、今後の体育に必要なのかなと思っています。

平成22年度
第32回 秋田県学校体育研究大会・大曲仙北大会
研究のまとめ

発行 大曲仙北大会実行委員会

発行日 平成23年1月31日

印刷所 騰写堂印刷